

KSIレポート

サステナブルファイナンス市場における 個人の能力開発に関する分析と提言

分析・執筆: 岸上有沙
(KSIからの委託に基づき実施)
発行元: KSI

エグゼクティブサマリー

- 課題意識と調査の目的

持続可能な社会の構築に貢献する金融(サステナブルファイナンス)が健全な形で機能するためには、資金の出し手、受け手、仲介者であるコンサルタント/アドバイザー、評価機関など、各関係者が十分な知識を身に着け、役割を担うことが必要となる。

各関係者に求められる役割とスキルについての全体傾向の分析に加え個々の声を丁寧に拾い上げることで、相互に期待している役割の認識ギャップを明らかにし、今後必要とされる各種教育機会の活用と創出に寄与することを本調査の目的としている。

- 分析結果と提言

1. 「社会への影響などを考慮する、哲学・思考力」の重要性が明らかに。個別知識の大前提として、WHYを問う教育コンテンツの検討を。

全体的に「社会への影響などを考慮する、哲学・思考力」を強化する必要性に重きを置く傾向が見えた。科学的な知識や理系学問は重要であるが、それに合わせて改めて「哲学・思考力」の重要性を求める意見が伺えた。また、どの関係者に対しても、ESG・グリーンを謳いながら実態の伴っていない資金調達や評価などの「ウォッシング」を防ぐ必要性に言及があった。各関係者自らがウォッシングに加担する当事者となり得ることを自覚した回答も見受けられたが、教育機会を設ける際も「ウォッシング」を防ぐためにも、WHYを問う機会をより強化していくことが重要と思われる。

2. 金融の役割や商品を理解する必要性の認識ギャップが存在。資金の出し手以外においても関連スキルを身に着ける必要性の再考を。

「サステナブルファイナンスに係る金融の役割に関する知識」や、「金融商品を発案、活用するスキル」を強化する優先度が全体的に低い結果となった。「資金の出し手」と「資金の受け手」間に存在する知識・視点ギャップを課題視する声が個別意見から挙げられたように、「資金の出し手」だけではなく、「資金の受け手」、「仲介者」、「評価機関」全てにおける「資金の出し手」側の視点への理解は市場全体が健全な形で発展していく上で不可欠と考えられる。

3. 国内の大学をはじめとした高等教育機関における教育機会が限定的。更なる教育機会提供を。

活用しているサステナブルファイナンスに関連した講座や研修プログラムを尋ねた設問への回答率は少なく、また特に講座提供機関としての大学に関しては国外に偏った回答となった。「教育機関」に期待する声も挙げられており、大学をはじめとして更に教育機会が提供されることを期待する。その他、各組織で独自にコンテンツを開発しているとの声も挙げられた。研修プログラムや講座を開発する教育機関においては、エコシステムの全体像が理解できる網羅的で受講対象範囲が広い講座に加え、銀行や運用会社と言った個別業界、組織内の階層、役割、所属部署など、よりカスタマイズされた教育機会のニーズにどのように答えていくかも考える必要があると考えられる。

エグゼクティブサマリー

■各関係者に求める役割

資金の出し手

- 目利き役
- 対話を通じた資金提供先の行動促進
- サステナブルな資金提供
- 好循環作り
- 教育・啓発

資金の受け手

- ガバナンス・経営能力・姿勢
- サステナブルファイナンスへの理解
- 事業を通じての具体的な取り組み
- 正確で分かりやすい情報開示

仲介者

- 双方を正しく理解した橋渡し役
- 高い専門知識に基づく助言・サポート
- ウォッシング回避

評価機関

- 質の高い評価・データの提供
- ウォッシング回避・独立性
- 評価の知見に基づく高度な助言・サポート
- 他の関係者との誠実な対話・理解

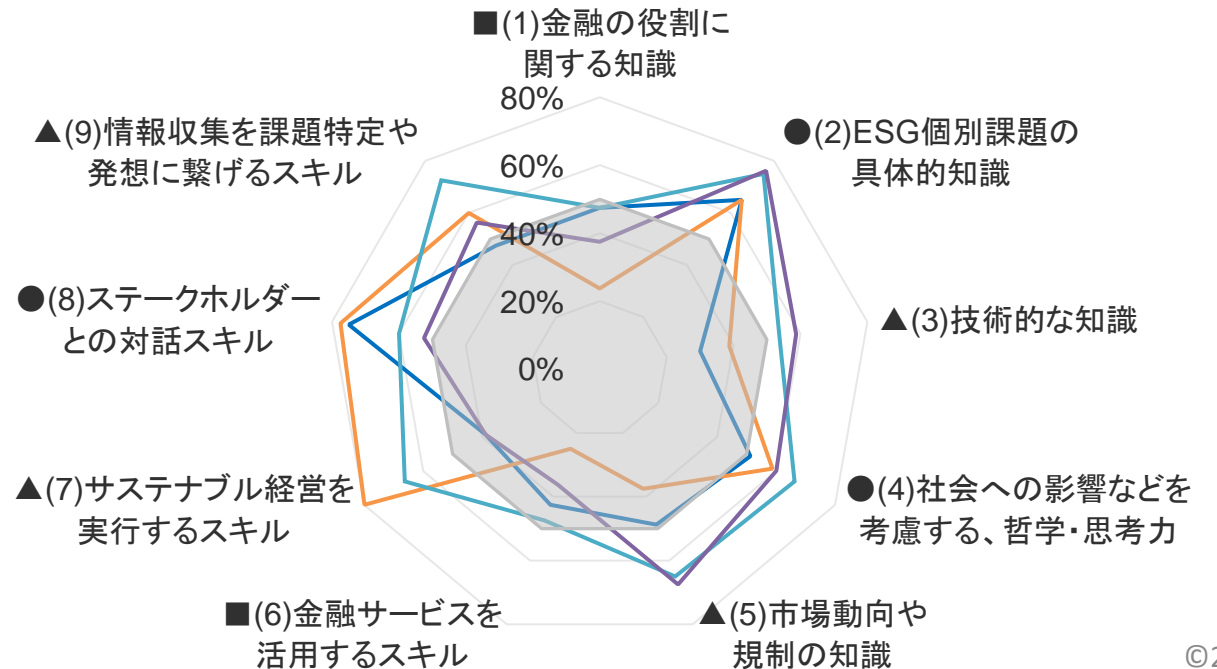
■各関係者が強化する必要性が「高い」スキル

下記チャートは、(1)～(9)のスキル(※)について、各関係者に対して強化する必要性が「高い」と選択された割合を示した。レーダーチャートが外側にあるスキルほど、強化することを期待されている。全体的に「高い」と選択されたスキル(●)、全体的に「高い」の選択率が低いスキル(■)、選択率にバラつきがあるスキル(▲)で分類。各対象者についての詳細はP16以降に記載

※(1)～(9)の項目に関しては、金融庁サステナブルファイナンス有識者会議で提示された専門人材育成:スキルマップ(素案)内容及び議論内容を参考に設定した。 https://www.fsa.go.jp/singi/sustainable_finance/siryou/20220920/02.pdf

各関係者が強化する必要性が「高い」スキル

□1.資金の出し手 □2.資金の受け手 □3.仲介者 □4.評価機関 ■50%ライン



目次

エグゼクティブサマリー	2	3. 仲介者	26
目次	4	求める役割(全体傾向)	
はじめに	5	強化すべきスキル(選択肢設問の傾向分析)	
設問A～D: 設問概要と全体傾向	8	強化すべきスキル(理由の記述、個別意見)	
設問A: 回答者の属性について		4. 評価機関	30
設問B: 各関係者に一番求めている役割		求める役割(全体傾向)	
設問C: 各関係者が最も強化すべきスキル		強化すべきスキル(選択肢設問の傾向分析)	
設問D: スキルの獲得・向上に向けて活用・ 求める情報・教育機会		強化すべきスキル(理由の記述、個別意見)	
対象者別分析(設問B・設問C)	16	その他強化すべきスキル	
1. 資金の出し手	16	5. その他の関係者	36
求める役割(全体傾向)		役割が求められる関係者(全体傾向)	
強化すべきスキル(選択肢設問の傾向分析)		役割を求める理由(個別意見)	
強化すべきスキル(理由の記述、個別意見)		設問D: スキルの獲得・向上に向けて活用・ 求める情報・教育機会	39
その他強化すべきスキル		終わりに: 調査を踏まえた提言	44
2. 資金の受け手	21	Appendix	46
求める役割(全体傾向)		活用している教材・研修一覧	
強化すべきスキル(選択肢設問の傾向分析)		対象者別、強化すべきスキル分析詳細	
強化すべきスキル(理由の記述、個別意見)		アンケート設問	
その他強化すべきスキル			

はじめに

サステナブルファイナンスの活用と広がりの中、各関係者に求められる役割とスキル：認識のギャップと活用できる教育機会の解明を求めて

「サステナブル経営」、「サステナブルファイナンス」や「ESG投資」という言葉を目にしないう日がないほど、サステナビリティは経営や投資において重要なテーマとなっている。今後も総称する言葉は時代と共に変わると思うが、一部の社会貢献活動や一部の金融商品でのみ考えていた環境や社会への配慮が、通常の経営、通常の投融資行動の一環で重要な取り組みとして、位置付けが根本的に変わってきている。

それを反映して、環境や社会要素も包括的に捉えた経営と資金提供を後押しする環境整備も急速に進展している。上場企業における気候変動や人的資本の取り組みと開示、その取り組みの情報収集と評価を行うESG評価・データ提供機関に適用する行動規範、金融機関における気候変動リスクシナリオ分析や投資信託商品におけるサステナビリティ要素の説明強化など、関連する制度の改正・新設が続いている。

こうした急激な環境変化を受けて、サステナブルファイナンスに携わる人材の育成が急務となっている。

本調査では、投資・融資・保険引受などを含めた広義の「サステナブルファイナンス」を軸として、各関係者に求める役割、そのために強化が必要なスキル、そして活用されている教育機会を明らかにすることを目的とし、特に各関係者間で求める役割やスキルについて認識ギャップがあるかどうかに焦点を当てた。資金の出し手（運用会社、銀行、保険会社）、資金の受け手（企業・自治体）、データ・評価機関（NPO・NGO含む）に加え、情報開示、経営戦略、ESGラベルボンドの発行など様々な場面で関わりを持つ、仲介者（コンサルタント・アドバイザー）を調査の主対象者として位置付けた。

設問設計にあたり、各関係者が「必要とするスキル」の選択肢は、金融庁主催のサステナブルファイナンス有識者会議の中で議論された「スキルマップ」を参考にした。その上で、調査実施側の誘導や先入観を極力抑えるため、記述式の設問を多く設定した。また、例えば「仲介者」一つとっても、上記の通り細かな役割は色々あり、それぞれを丁寧に深掘りする価値もあるが、今回は「資金の出し手」「資金の受け手」「評価機関」「仲介者」各々への期待や課題を特定の業界に偏らずに収集することを目的に、設問対象および回答者の間口を広く設定した。

今回の調査には、85件の回答にご協力頂いた。定量分析を行うにあたっては決して多くはない一方で、多様な立場の方から細かく回答頂いている。こうした特徴も踏まえ、本調査では定量・定性での傾向分析に加え、傾向に綺麗に収まりきれない多様な個々の生の声をなるべく届ける形でまとめている。持続可能な環境・社会の実現に即した経営・経済・金融を営むにあたって、各々の役割を継続的に議論し見直すきっかけの一つとなることを期待する。

※今後の人材と教育機会に関する継続的な議論に向けて、調査設問や内容に関する要望、質問、感想などがある場合は、下記までご意見をお送りください。
宛先：[info\[a\]kamakurasustainability.com](mailto:info[a]kamakurasustainability.com) / 件名「サスファイ人材」※【a】を@に変更してご送付ください。

はじめに

1: 調査目的

持続可能な環境・社会の構築に貢献する金融(サステナブルファイナンス)が健全な形で機能するためには、資金の出し手、受け手、仲介者であるコンサルタント/アドバイザー、評価機関など、各関係者が十分な知識を身に着け、役割を担うことが必要となる。

過渡期にあるサステナブルファイナンスの活用と広がりの中、各関係者に求められる役割とスキルについての全体傾向の分析と多様性のある個々の声を拾い上げることで、相互に期待している役割の認識ギャップを明らかにし、今後必要とされる各種教育機会の活用と創出に寄与することを本調査の目的としている。

2: 設問

設問A: 回答者の属性について(選択式 + 詳細を補足する自由記述式)

設問B: 各関係者に一番求めている役割(自由記述式)

- 1) サステナブルファイナンス資金の出し手(運用会社、銀行、保険会社など)
- 2) サステナブルファイナンス資金の受け手(企業、自治体など)
- 3) サステナブルファイナンスの活用仲介者(コンサルタント/アドバイザー)
- 4) サステナブルファイナンスに必要な情報を提供する評価機関※
- 5) その他、サステナブルファイナンスにおいて役割が期待される関係者

設問C: 各関係者が強化すべきスキル(選択肢式 + 一部選択の理由を述べる補足の自由記述)

- 1) サステナブルファイナンス資金の出し手(運用会社、銀行、保険会社など)
- 2) サステナブルファイナンス資金の受け手(企業、自治体など)
- 3) サステナブルファイナンスの活用仲介者(コンサルタント/アドバイザー)
- 4) サステナブルファイナンスに必要な情報を提供する評価機関
- 5) その他、サステナブルファイナンスにおいて役割が期待される関係者

設問D: スキルの獲得・向上に向けて、どのような情報・教育機会を活用し、求めているのか。(自由記述式)

はじめに

3: 集計方法

本調査の企画者である鎌倉サステナビリティ研究所のメーリングリストやサイトでの呼びかけに加えて、情報メディア、事業・金融に関わる各種業界団体や協会、サステナブルファイナンスに関連したメーリングリスト、国内外向けSNSおよび関係者への直接的な呼びかけに基づいて協力者を募った(※)。その結果、性別、年代、属性等の基本情報に加えて3つの大設問(64の個別設問を含む)に対して、オンラインでのアンケート回答80件、オンラインインタビュー回答5件を得た。

※具体的には、株式会社オルタナ、日本証券業協会、日本サステナブル投資フォーラム(JSIF)、NPO法人サステナビリティ日本フォーラム、Green Finance Network Japanを含めた団体のMLを活用した周知にご協力頂いた。

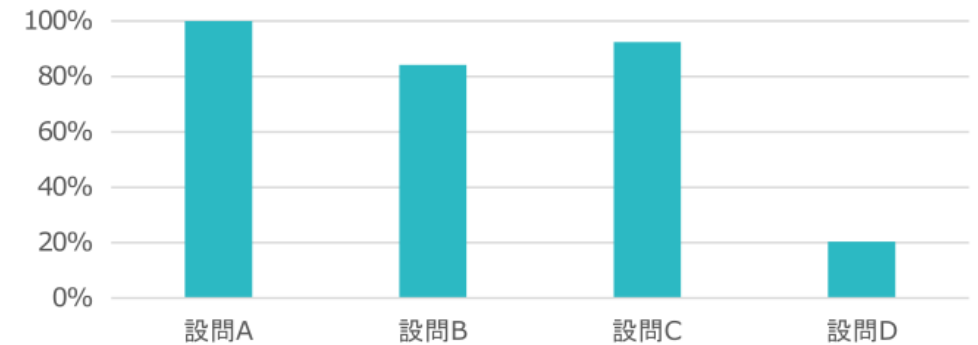
4: 回答率

各設問の回答率をグラフに示す。設問A、B、Cは回答率80%を超えた。設問Bに関しては記述式であるにもかかわらず回答率84%と高かったのに対し、設問Dは20%と著しく回答率が低かった。(詳細はP14,P39参照)

5: 分析方法

設問A~Dそれぞれの全体傾向を整理した上で、設問B、Cに関しては、「資金の出し手」、「資金の受け手」、「仲介者」、「評価機関」、「その他」の対象者別に期待されている役割とスキルの全体傾向と個別意見をまとめている。その際、当事者の認識とそれ以外の関係者との期待値の違いを中心に分析を行った。設問Dに関しては、回答者から具体的に言及のあった講座などの傾向をまとめている。

各設問回答率 (n=80)



設問A: 回答者の属性について(選択式 + 詳細を補足する自由記述式)

設問B: 各関係者に一番求めている役割は何か?(自由記述式)

設問C: 各関係者が強化すべきスキルは何か?

(選択肢式 + 一部選択の理由を述べる補足の自由記述)

設問D: スキルの獲得・向上に向けて、どのような情報・教育機会を活用し、求めているのか。(自由記述式)

設問A～D全体傾向

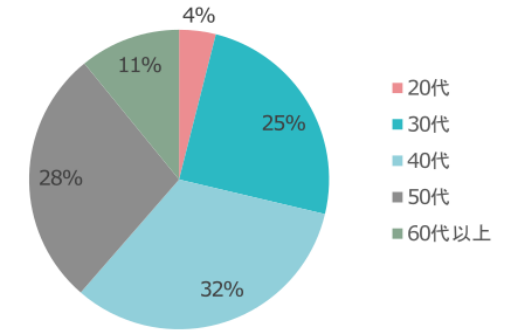
設問A: 回答者の属性について

【選択式 + 詳細を補足する自由記述式】

■ 性別・年代

回答者の属性の傾向を把握するために性別、年代を設問項目に含めた。性別に関しては女性41%、男性58%、回答なし1%と大きな偏りは確認されなかった。また年代は、30～50代で全体の約85%以上を占め、20代の視点が限られる以外は大きな偏りは確認されなかった。

年代 (n=80)

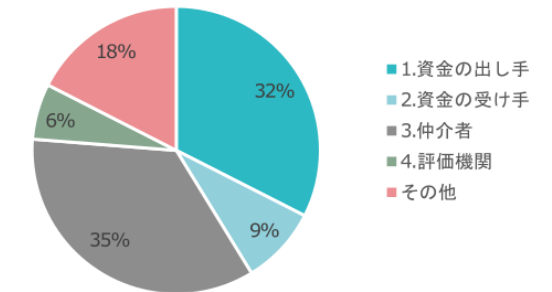


■ 職業

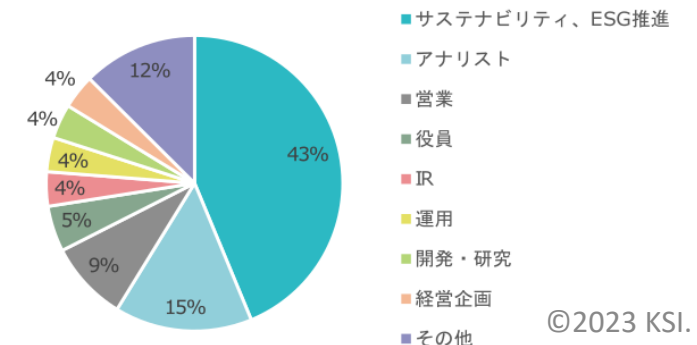
先述の通り、本調査では「資金の出し手」、「資金の受け手」、「仲介者」、「評価機関」、「その他」の5つに分類して設問を設定している。具体的な職業や職種に関する回答に基づき回答者をこの5分類に振り分けたところ、以下のような傾向となった。本調査の分析には、こうした回答者の特徴が反映されていると言える。※

- 「1. 資金の出し手」には、運用会社、銀行、保険会社等に所属する回答者が分類される。回答者全体の32%と、2番目に多いグループとなった。このうち半分以上は運用会社関係者と最も多かった。
- 「2. 資金の受け手」および「4. 評価機関」に属する回答者はそれぞれ全体の9%、6%と限られている。
- 「3. 仲介者」に属する回答者は、35%と本調査で最も多いグループとなった。この中には、職業を「コンサルタント」と選択している監査法人や独立系コンサルティング会社に所属する回答者に加えて、サステナブルファイナンスの文脈の中で主な役割としてコンサルティング関連業務を行っている証券会社関係者も含まれている。尚、銀行も一部コンサルタント業務を実施しているが、個別回答者が説明する職種内容から、本調査においては「資金の出し手」に分類している。
- 「その他」の中には、大学の教授等の教育関係者や、評価に携わっていない非営利団体などに所属する回答者が含まれている。

職業 (n=80)



職種 (n=80)



※ 自らがこの5分類のどこに属するか設問も設けたが、傾向を分析するには設問設定側の意図が十分に伝わらなかったと考えられるため、今回のレポートでは省略している。

■ 職種

具体的な職種については、資金の出し手、受け手など職業の分類に関係無く、「サステナビリティ、ESG推進」を主な業務内容としている回答者が最も多かった。次いで、企業分析を主とした「アナリスト」が15%を占めている。

設問B：各関係者に一番求めている役割

【自由記述式】

■設問概要

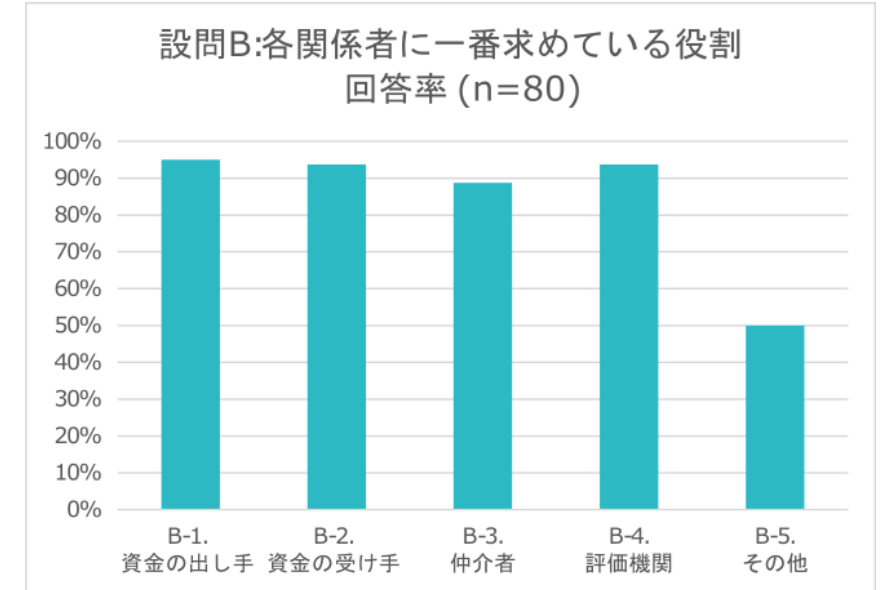
設問Bは、「はじめに」で紹介した1.資金の出し手、2.資金の受け手、3.仲介者、4.評価機関、5.その他に分類した関係者に対して、回答者が一番求めている役割について自由記述式で回答する設問。

■回答率

全記述式の設問にもかかわらず、1)~4)においては回答率が90%を超えており、5) その他を入れても8割以上の回答が得られた。

■分析方法

調査実施側の誘導を避けるため、選択肢ではなく自由記述の設問として設定した。よって、定量的な傾向分析は行っていないが、自由記述の中から見られる傾向をいくつかのキーワードに関連する形で分析を行っている。なお、傾向に即した個別意見に関しては、「対象者別分析」(P16以降)の「強化すべきスキル(理由の記述、個別意見)」にて一部紹介している。



設問B：各関係者に一番求めている役割

【自由記述式】

■全体の傾向

各関係者に求める主な役割についてのキーワードは下記のとおり。詳細に関しては、各「対象者別分析」(P16以降)の「求める役割(全体傾向)」で紹介する。

1).サステナブルファイナンス資金の出し手 (運用会社、銀行、保険会社など)

- 目利き役
- 対話を通じた資金提供先の行動促進
- サステナブルな資金提供、好循環作り
- 教育・啓発

2).サステナブルファイナンス資金の受け手 (企業、自治体など)

- ガバナンス・経営能力・姿勢
- サステナブルファイナンスへの理解
- 事業を通じての具体的な取り組み
- 正確で分かりやすい情報開示

3).サステナブルファイナンスの活用仲介者 (コンサルタント/アドバイザー)

- (資金の出し手、受け手)双方を正しく理解した橋渡し役、
- 高い専門知識に基づく助言・サポート
- ウォッシング回避

4).サステナブルファイナンスに必要な情報を提供する評価機関

- 質の高い評価・データの提供
- ウォッシング回避・独立性、
- 評価の知見に基づく高度な助言・サポート
- 他の関係者との誠実な対話・理解

5). その他、サステナブルファイナンスにおいて役割が期待される関係者

- 関係省庁・監督当局
- メディア
- 教育機関、
- NGO
- 個人
- AI技術者
- スタートアップ企業など

設問C: 各関係者が最も強化すべきスキル

【選択肢式・設問解説】

■設問概要

1)資金の出し手、2)資金の受け手、3)仲介者、4)評価機関に分類した関係者、および5) 回答者自身、それぞれに対して、右記の(1)~(9)に列挙したスキルで強化すべきレベルを「高・中・低・該当なし」から選択する選択肢式の設問。これに加え、この高中低を選んだ理由、その他強化すべきスキルについて記述式で回答。

※(1)~(9)の項目に関しては、金融庁サステナブルファイナンス有識者会議で提示された専門人材育成:スキルマップ(素案)内容及び議論内容を参考に設定した。

https://www.fsa.go.jp/singi/sustainable_finance/siryoku/20220920/02.pdf

※(1)~(9)のスキル項目は、(6)金融サービスを発案するスキル、または(6)金融サービスを活用するスキル等、対象者によって質問事項の微調整を行なっている。

■回答率

設問Cは大半が選択式であるとは言え、5つの関係者 x 9つの小設問を含んだ45の設問の平均回答率が92%と高い結果となった。

■分析方法

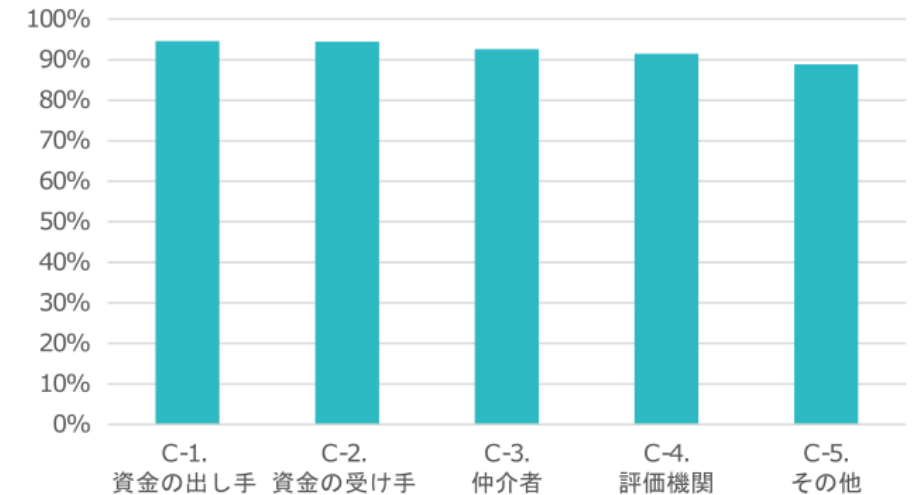
- いずれの設問においても強化すべき必要性で「高」または「中」と選択されている回答者が合わせて8割を超える傾向にあった。そのため、今回の分析では、より強化すべきものとして「高」と選択されたスキルに注目して分析を行った。(詳細はAppendix)
- 全体傾向に加えて回答者の属性を考慮し、例えば「資金の出し手」と「資金の出し手以外」など、当事者とそれ以外の関係者による期待値の違いが見える形で分析を行った。
- また、定量的な傾向分析に加えて、多様な生の声をそのまま確認できるよう、個別意見を別途紹介している。
- 「5.回答者自身が強化すべきスキル」に関しては、「自身」の立場が様々なため、独立した分析を本文で紹介していないが、適宜1)~4)の関係者に沿う形で個別意見に反映し紹介している。全体的には自身に対するスキル強化のモチベーションが高い傾向が見られた。詳しい図はAppendixにまとめている。

設問C(選択式):

1).~4).の各関係者、また自分自身が強化すべきスキルは何ですか？
高・中・低・該当せず、から選択

- (1)金融の役割に関する知識
- (2)ESG個別課題の具体的知識
- (3)技術的な知識
- (4)社会への影響などを考慮する、哲学・思考力
- (5)市場動向や規制の知識
- (6)金融サービスを発案(活用)するスキル
- (7)サステナブル経営を実行するスキル
- (8)ステークホルダーとの対話スキル
- (9)情報収集を課題特定や発想に繋げるスキル

設問C:各関係者が最も強化すべきスキル
回答率 (n=80)



設問C: 各関係者が最も強化すべきスキル

【選択式・スキル別：全体傾向】

■全体の傾向

下のグラフは、1)~4)の関係者別に、(1)~(9)のスキルを強化する必要性が「高い」と選択された比率を示している。レーダーチャートが外側にあるスキルほど、強化することを期待されている。更に掘り下げたそれぞれの関係者の当事者による回答とそれ以外の比較分析に関しては、「対象者別分析」セクション(P16以降)の「強化すべきスキル(選択肢設問の傾向分析)」に記載している。

各関係者が強化する必要性が「高い」スキル

(●) 選択率が高いスキル

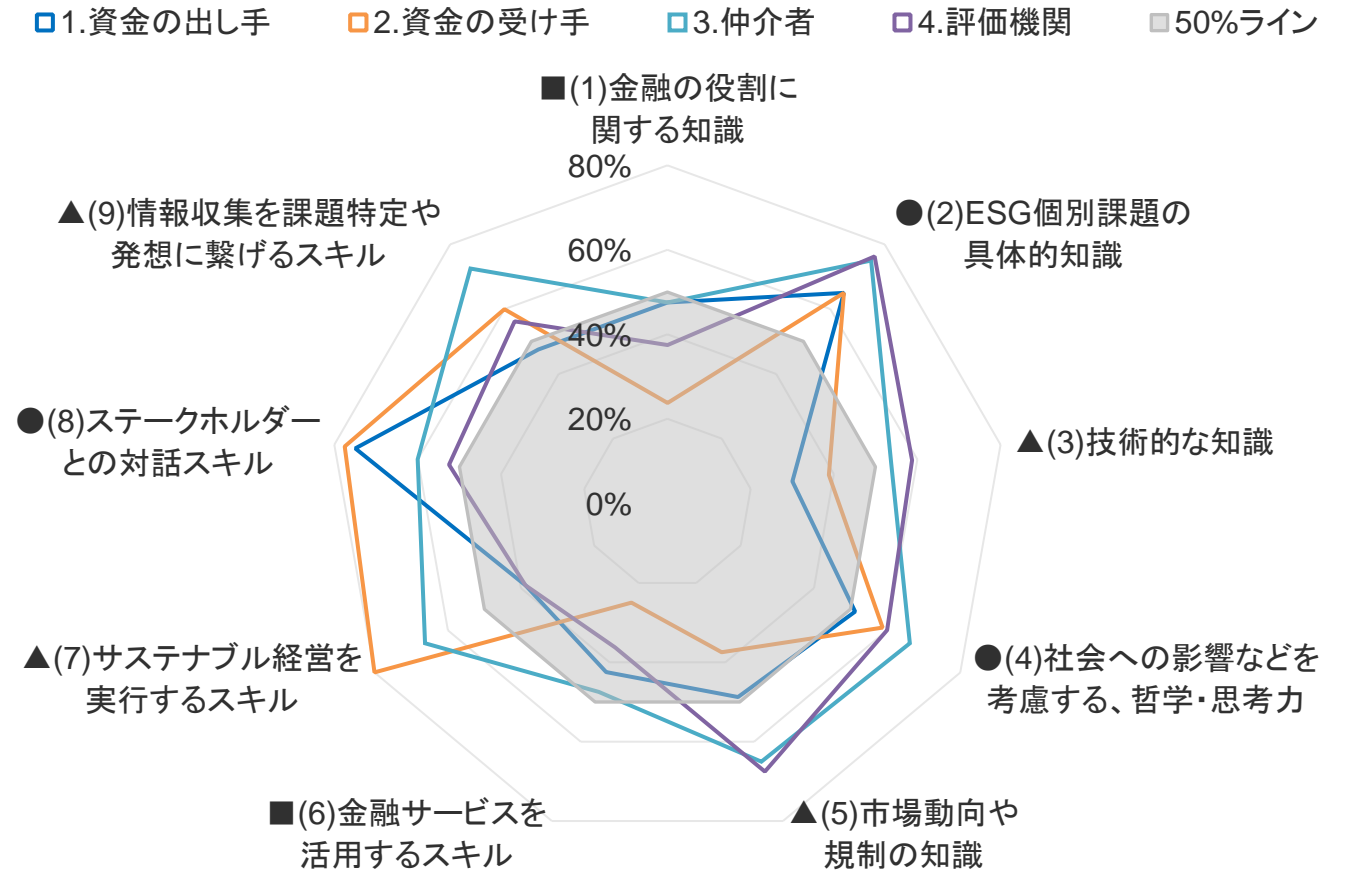
- (2)ESG個別課題の具体的知識
- (4)社会への影響などを考慮する、哲学・思考力
- (8)ステークホルダーとの対話スキル
→評価機関を除き、全体的に(3)より
- (4)のスキルを強化すべきとの回答傾向が見られた。

(■) 選択率が低いスキル

- (1)金融の役割に関する知識
- (6)金融サービスを発案するスキル
→全体的に低い上で、特に資金の受け手に対しては、「強化する必要性が高い」という回答が少なかった。

(▲) 選択率にバラつきがあるスキル

- (3)技術的な知識
- (5)市場動向や規制の知識
- (7)サステナブル経営を実行するスキル
→(5)は仲介者および評価機関において強化する必要性が高いとの回答傾向が見られた。
- (7)は設問対象によって必要性が最も異なった。



設問C: 各関係者に対して強化すべきスキルが「高い」と選択されたスキルランキング

- ・どの対象者も(2) ESG個別課題の具体的知識(8)ステークホルダーとの対話スキルのスキルが60%以上を超え、必要性が高い。
- ・(1)金融の役割に関する知識、(7)サステナブル経営を実行するスキル、は対象者によって大きくバラつきがある
- ・仲介者に求めるスキルはどれも高い

選択率	40%以下	40%~60%	60%以上
-----	-------	---------	-------

	1.資金の出し手		2.資金の受け手		3.仲介者		4.評価機関	
1	(8)ステークホルダーとの対話スキル	75%	(7)サステナブル経営を実行するスキル	80%	(2)ESG個別課題の具体的知識	75%	(2)ESG個別課題の具体的知識	76%
2	(2)ESG個別課題の具体的知識	65%	(8)ステークホルダーとの対話スキル	78%	(9)情報収集を課題特定や発想に繋げるスキル	73%	(5)市場動向や規制の知識	68%
3	(4)社会への影響などを考慮する、哲学・思考力	51%	(2)ESG個別課題の具体的知識	65%	(4)社会への影響などを考慮する、哲学・思考力	66%	(4)社会への影響などを考慮する、哲学・思考力	60%
4	(5)市場動向や規制の知識	49%	(9)情報収集を課題特定や発想に繋げるスキル	60%	(7)サステナブル経営を実行するスキル	66%	(3)技術的な知識	59%
5	(1)金融の役割に関する知識	48%	(4)社会への影響などを考慮する、哲学・思考力	59%	(5)市場動向や規制の知識	65%	(9)情報収集を課題特定や発想に繋げるスキル	56%
6	(9)情報収集を課題特定や発想に繋げるスキル	48%	(3)技術的な知識	39%	(8)ステークホルダーとの対話スキル	60%	(8)ステークホルダーとの対話スキル	53%
7	(6)金融サービスを活用するスキル	43%	(5)市場動向や規制の知識	38%	(3)技術的な知識	54%	(7)サステナブル経営を実行するスキル	39%
8	(7)サステナブル経営を実行するスキル	39%	(6)金融サービスを活用するスキル	25%	(1)金融の役割に関する知識	48%	(1)金融の役割に関する知識	38%
9	(3)技術的な知識	30%	(1)金融の役割に関する知識	24%	(6)金融サービスを活用するスキル	48%	(6)金融サービスを活用するスキル	36%

※(1)-(9)の項目に関しては、金融庁サステナブルファイナンス有識者会議で提示された専門人材育成：スキルマップ（素案）内容及び議論内容を参考に設定した。
https://www.fsa.go.jp/singi/sustainable_finance/siryou/20220920/02.pdf

設問C: 各関係者に対して強化すべきスキルが「高い」と選択された比率 ギャップ分析一覧【自己/他者】

選択率 40%以下 40%~60% 60%以上 ギャップ 10%以下 10%~30% 30%以上

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)
		金融の役割に関する知識	ESG個別課題の具体的知識	技術的な知識	社会への影響などを考慮する、哲学・思考力	市場動向や規制の知識	金融サービスを活用するスキル	サステナブル経営を実行するスキル	ステークホルダーとの対話スキル	情報収集を課題特定や発想に繋げるスキル
資金の出し手	自己	35%	54%	27%	54%	35%	38%	50%	85%	50%
	他者	54%	70%	31%	50%	56%	44%	33%	70%	46%
	ギャップ	-19%	-17%	-5%	4%	-21%	-6%	17%	14%	4%
資金の受け手	自己	14%	71%	43%	57%	57%	14%	86%	86%	71%
	他者	25%	65%	39%	60%	36%	26%	81%	78%	60%
	ギャップ	-11%	6%	4%	-3%	21%	-12%	5%	8%	12%
仲介者	自己	46%	79%	36%	71%	64%	36%	64%	64%	79%
	他者	48%	73%	63%	63%	65%	54%	67%	58%	69%
	ギャップ	-2%	5%	-28%	8%	-1%	-18%	-3%	7%	9%
評価機関	自己	20%	80%	80%	40%	60%	20%	20%	60%	20%
	他者	39%	76%	57%	61%	68%	37%	40%	52%	59%
	ギャップ	-19%	4%	23%	-21%	-8%	-17%	-20%	8%	-39%

※(1)-(9)の項目に関しては、金融庁サステナブルファイナンス有識者会議で提示された専門人材育成：スキルマップ（素案）内容及び議論内容を参考に設定した。

https://www.fsa.go.jp/singi/sustainable_finance/siryoku/20220920/02.pdf

設問D: スキルの獲得・向上に向けて活用・求める情報・教育機会

■設問概要

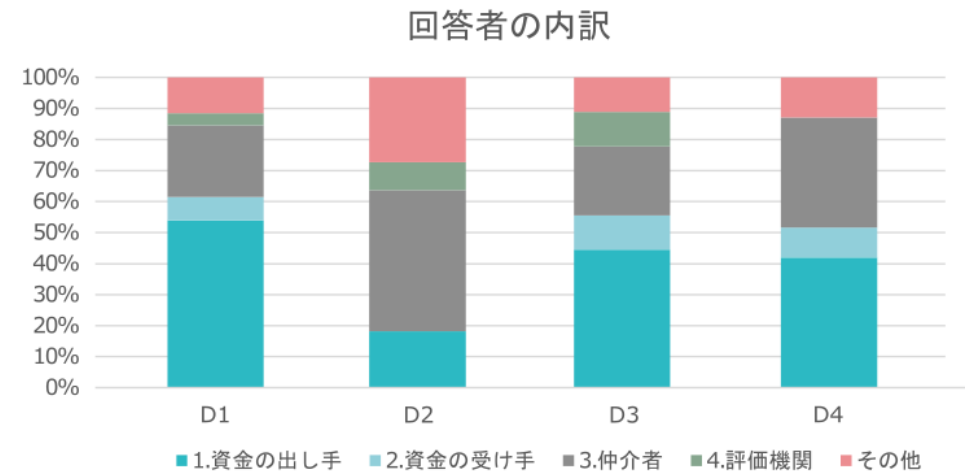
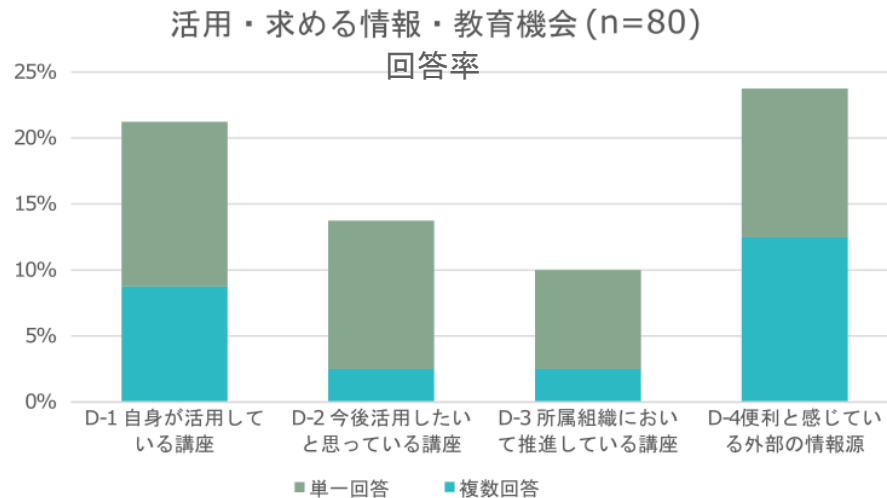
サステナブルファイナンスに直接関連し、自身で活用している、活用したいと思っている、または所属組織で推薦している講座や研修について尋ねた。また、正式な研修以外にサステナブルファイナンスに関連して便利と感じる外部情報源に関して尋ねた。

■回答率

- 設問BやCに比べて、平均回答率が20%と低く、適した教育機会は限られていることが伺えた。中でもD-3所属組織が推進している外部教材に関する回答が最も少なく、D-4外部の情報源に関する回答が最も多かった。
- 回答者の内訳として、全体的に1.資金の出し手が多い傾向だったが、D-2.に関しては3.仲介者の回答が多かった。

設問D(自由記述式):
サステナブルファイナンスに関連したスキルの獲得・向上に向けて、どのような情報・教育機会を活用し、求めていますか。(各3つまで記入可)

- D-1. あなた自身が活用している教材・講座・研修・資格
- D-2. あなた自身が今後活用したいと思っている教材・講座・研修・資格
- D-3. 所属組織において推進している教材・講座・研修・資格
- D-4. 研修等ではないが、便利と感じている外部の情報源



■分析方法

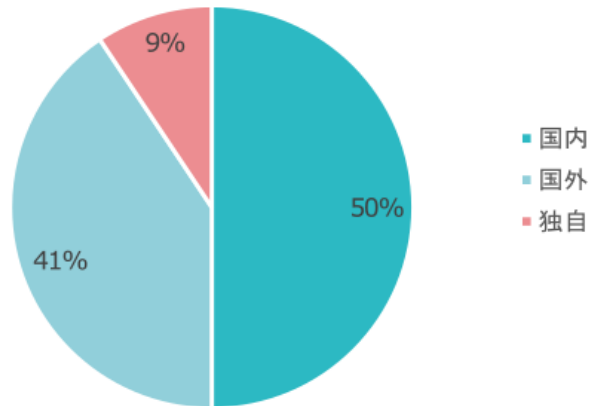
- 回答率や回答内容を踏まえ、大きく分けて「講座・研修」と「便利な情報源」の二つに分けて回答者の活用傾向を分析した。
- また、提供元が国内機関か国外機関かに分けて整理を行った。
- 尚、回答者が言及した公式な研修や講座は、公開リンクと共にAppendixにて紹介している。

設問D: スキルの獲得・向上に向けて活用・求める情報・教育機会

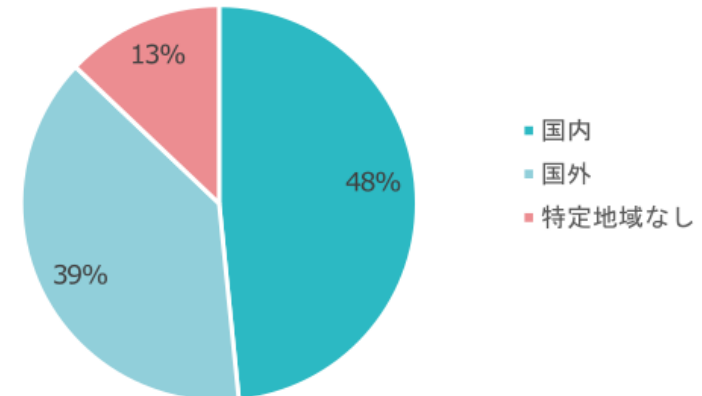
■全体の傾向

- 「講座・研修」の提供元、外部情報源を合わせ、約50%が国内、40%が国外、5%が国内外両方に属する情報を活用している傾向が見られた。
- D-3の所属組織が推進している外部情報源に関しては、回答率の低さからも、現段階では組織として体系立てて学ぶというよりも、個々人の自発的な行動に依存する傾向が見られた。尚、多数ではないが、ここで独自の研修を組織内で開発しているケースも見られた。

活用されている講座・資格等
(n=32)



情報源元組織の国内外割合 (n=31)



【対象別分析】

1. 資金の出し手（運用会社、銀行、保険会社など）

- 求める役割（全体傾向）
- 強化すべきスキル（選択肢設問の傾向分析）
- 強化すべきスキル（理由の記述、個別意見）
- その他強化すべきスキル

「資金の出し手」に求める役割（設問B）

【自由記述式・全体傾向】

「資金の出し手」に求める役割を設問Bで尋ねたところ、主に以下のキーワードにまとめられるような傾向が確認された※。

目利き役	<p>「資金の出し手」に属する回答者自らを中心に、投融資先をサステナビリティに資する形で評価できる目利き力、判断力、そしてそれを公平に行うための基準構築および情報開示を求める声があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グリーンウォッシング回避に繋がる正確な評価・判断 ・ 中長期的な時間軸を踏まえた判断 ・ 財務的マテリアリティと環境・社会的マテリアリティの両側面を考慮した評価 ・ クレジットとESGの2軸の判断基準の明確化
対話を通じた 資金提供先の行動促進	<p>最終顧客との対話に加え、特に対話を通じた「資金の受け手」の理解と行動促進の役割を求めるとの回答があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 資金提供先との的確で誠実な対話 ・ 資金提供先に対し情報の透明性・正確性・分かりやすさを促す対話 ・ 資金提供先と社会的意義を共に考える姿勢 ・ 本当にサステナブルな社会の構築に繋がる対話 ・ 投融資先に是正を求める影響力の行使
サステナブルな 資金提供	<p>様々な捉え方からみた「資金提供」の役割を求める声が寄せられた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 安定した資金提供、投機的より質的な資金提供 ・ サステナビリティを促進するための企業への資金提供 ・ 中長期的に社会課題の解決に役に立つ事業への資金提供 ・ リスクリターンに関連し得るESG課題を反映した資金提供
好循環作り	<p>社会課題解決に向けた資金提供を通じたスキーム作りの役割も求められた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会課題の解決に向けたスキーム（資産運用ビジネス）の創出 ・ 借り手がサステナブルな活動を継続できるインセンティブ（金利やスキーム）の創出 ・ 大手企業にとってはサプライチェーン上にある企業の取り組み・開示を促すための「資金の出し手」（特に地方銀行などの融資）としての働きかけ
教育・啓発	<p>その他にも、教育・啓発を促進する役割を期待する声もあった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ サステナブルファイナンスに関する金融商品を販売する社員への教育の充実 ・ 個人投資家のリテラシーの向上に配慮した説明

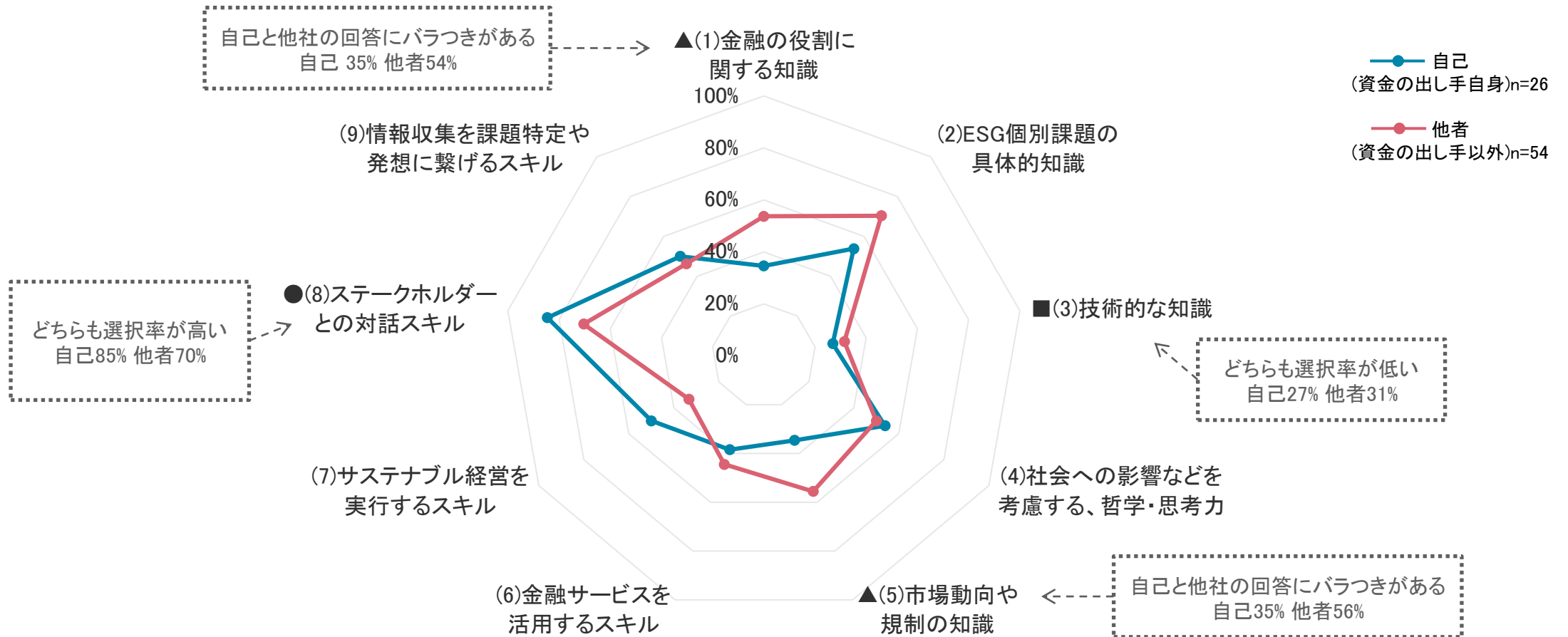
※役割とは言えないが、「資金の出し手」に属する回答者を中心に、「そもそもファイナンスやサステナブルファイナンスが何を指すのか、その定義や哲学をしっかりと持つこと」が必要との意見が複数寄せられた。

「資金の出し手」が強化すべき必要性が高いスキル（設問C）

【当事者(自己)とそれ以外(他者)の傾向分析】

事前に設定した9つのスキルに関して、強化すべき必要性の高さを確認した。以下では、「資金の出し手」の当事者とそれ以外の回答者に分け、それぞれのスキルを強化する必要性が「高」と選択した回答者の比率を集計した。また、「資金の出し手」当事者とそれ以外の回答者を比較し、共に選択率が高いスキル(●)、共に選択率が低いスキル(■)、当事者とそれ以外で回答にばらつきがある(▲)ところをハイライトしている。

C-1. 資金の出し手が強化すべきスキル「高」の選択率



「資金の出し手」が強化すべき必要性が高いスキル(設問C)

【理由の記述・個別意見】

前頁では選択式回答の定量的な傾向分析を行ったが、その傾向の裏にある意見の多様性を理解するため、以下では必ずしも全体傾向とは合致しない意見も含めて、ヒアリングやアンケートを通じて得た個別意見を抜粋して紹介する。

((4)社会への影響などを考慮する、哲学・思考力と、(8)ステークホルダーとの対話スキル を最も強化すべきと選択)
ESGの個別具体的な課題(の分析)は専門家や環境・社会コンサル企業に外注可能だが、それらから得た情報をもとに、特定の対象に資金提供すべきか否かを考えるためには、より広い視座が必要だと思う。

-資金の出し手(銀行)関係者

((3)技術的な知識(理系)を必要なスキルと高く感じるのは)
ESG要素を投資判断、資金調達の全てで(考慮)するには、客観的、科学的な手法を取り入れる必要性が高いから。

-資金の出し手(金融機関)関係者

(1)金融の役割に関する知識や(5)市場動向や規制の知識は当たり前の知識として持ち合わせ、(2)ESG個別課題の具体的知識は、投資家側が対話のテーマとして選んでいる限りは内容を理解していて欲しい。

-資金の受け手(事業会社)関係者

(4)社会への影響などを考慮する、哲学・思考力は、個別の技術やESG要素だけでなく、例えばライフサイクルアセスメントなど全体像を理解し、その上で投資判断や対話できるように強化して欲しい。

-資金の受け手(事業会社)関係者

特に(8)ステークホルダーとの対話スキルは、既に持っているが更に高める必要があると思われる。尚、(7)サステナブル経営を実行するスキルは、目標としては重要視すべきだろう。

-仲介者(証券会社)関係者

(全体的に高く選択)
社会・環境課題やその対応としての政策の潮流、その解決に資する技術や方策、そこにおける金融の役割、企業が備えるべきマネジメント・ガバナンス機能などが総合的に理解できて初めて、適切な企業評価が可能となると思うため。

-仲介者(コンサルタント)関係者

特に日本やアジア諸国においては、投資リターンでアルファが得られるかどうかに関心する傾向がまだある。投資によるより広義の影響を理解出来るよう、(4)社会への影響などを考慮する、哲学・思考力のスキルを特に強化する必要がある。

-評価機関(評価会社)関係者

(全てのスキルを強化すべき必要性が高いと選択)
インベストメントチェーンで主導的な役割を果たすことが期待されるため、サステナブルファイナンスに関連するスキルはすべて重要性が高いと考えたため。

-その他

「資金の出し手」が強化すべきスキル（設問C）

【その他強化すべきスキルに関する自由記述傾向】

事前に定めた9つのスキル以外に「資金の出し手」が強化すべきスキルを尋ねたところ、以下のような回答傾向があった。

グローバルな対話・発信力に関連したスキル	<p>「ステークホルダーとの対話スキル」は先に提示したスキル一覧に含まれているが、主にグローバルな意見交換の場での発信力や、資金の受け手以外のステークホルダーとの対話力が具体的に挙げられた。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 情報伝達スキル・ グローバルな流れへの発信力・ 語学(英語)力・ ESG債券外部評価機関の対話力・ 受益者への取り組み説明力
活動の前提となる思考・長期ビジョンを描くスキル	<p>今回の調査で度々みられる意見だが、サステナブルファイナンスを実行する前提としての姿勢や思考が必要なスキルとして挙げられた</p> <ul style="list-style-type: none">・ ESG投資を実施する上での責任感・ ESG推進の根底となる哲学・基本的な考え・ 目的思考・ 部分的な情報に頼らない、全体を見渡したバランス感覚・ 対話を効果的に行うための倫理学や信頼構築・ 長期ビジョンの策定と堅持
自立した思考と行動力の柱となる知見と能力	<p>サステナブルな事業とファイナンスのエコシステムが上手く機能するためにも、資金の出し手が自立した形で取り組むことを期待する回答も寄せられた。</p> <ul style="list-style-type: none">・ マネジメント・ガバナンスに関する知見・ 国際規範・個別課題に関する知見・ ポジティブ・ネガティブ面両方を適切に評価できるための知見・ 金融知識に伴ったESG課題基礎知識・ 社会的インパクトを評価する力・効率的に運用する力・ コンサルタントや評価会社に頼らずに自分で分析、対話できる力

【対象別分析】

2. 資金の受け手（事業会社・自治体など）

- 求める役割（全体傾向）
- 強化すべきスキル（選択肢設問の傾向分析）
- 強化すべきスキル（理由の記述、個別意見）
- その他強化すべきスキル

「資金の受け手」に求める役割（設問B）

【自由記述式・全体傾向】

「資金の受け手」に求める役割を設問Bで尋ねたところ、主に以下のキーワードにまとめられるような傾向が確認された。※

<p>ガバナンス・ 経営能力・姿勢</p>	<p>「資金の受け手」としての姿勢とそれに伴った経営・ガバナンス体制を整えていることを求める声が多く寄せられた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 経営陣をはじめとした全社的な取り組み ・ サステナビリティ経営理念の言語化とそれを実現する強い意志 ・ 自分事=経営の一環としてサステナビリティの推進 ・ サステナビリティ視点で事業戦略の洗直し ・ 施策に落とし込む内部統制(の仕組み)を整備 ・ 表面的でない本質的なサステナビリティへの対応
<p>サステナブル・ ファイナンスへの理解</p>	<p>「資金の出し手」に属する回答者を中心に、サステナブルファイナンスの活用で創出できるインパクトを理解することが求められた。また、企業が母体となる企業年金によるサステナブルファイナンスの充実も期待された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ファイナンスを契機とした企業価値と社会価値の向上 ・ 資金を活用した環境・社会的なインパクトの創出 ・ 資金の活用によって得られるインパクトの理解、測定、報告
<p>事業を通じての 具体的な取り組み</p>	<p>社会的に正のインパクト事業の拡大、企業価値向上の両立に繋がるような取り組みを求める声が多く寄せられた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ESGリスク対応を負荷と感じず、当然の行為として実施 ・ インパクトを生み出す技術的進歩やビジネスの開発 ・ 企業価値向上と持続的成長に繋がる取り組み、サステナビリティ戦略の実践 ・ 自社の強みを活かした社会課題解決型の追加性のある事業の拡大 ・ カーボンニュートラル実現に向けた施策実行 ・ 積極的、誠実な対話
<p>正確で分かりやすい 情報開示</p>	<p>この設問で「対話」の役割を求める声は限られていたが、代わりに「資金の受け手」当事者以外の回答者からは、企業の行動内容が分かる情報開示・レポートの役割を求める声が多く寄せられた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 取り組みの実態を反映した情報開示 ・ 資金用途がウォッシュではないことが分かるインパクトの把握とレポート ・ 客観的・簡潔・タイムリー・正確な情報 ・ 長期的思考に基づいた開示

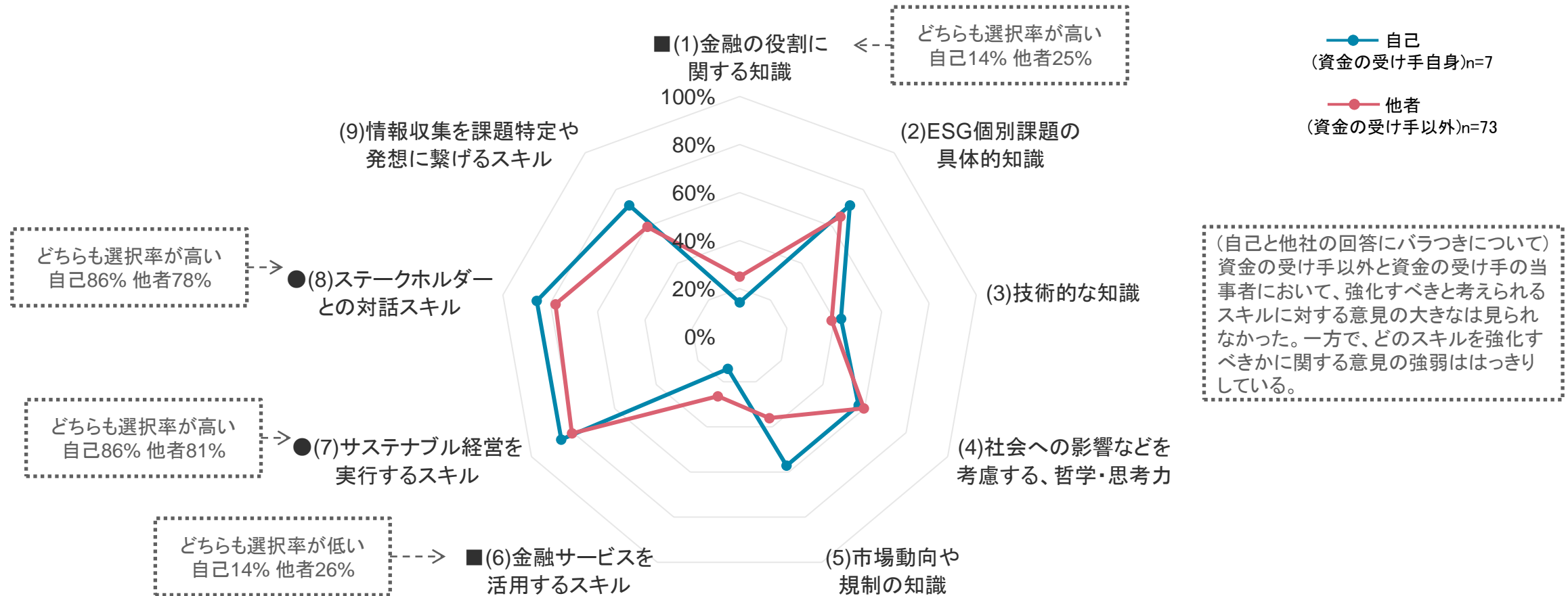
※役割とは言えないが、サステナビリティの主担当の方に加えて、有価証券報告書作成、投資家対話などの主担当となる財務やIRなどの他部署との連携強化を行う必要性を「資金の受け手」、「資金の出し手」に属する回答者が複数人に問題意識として挙げた。

「資金の受け手」が強化すべき必要性が高いスキル（設問C）

【当事者(自己)とそれ以外(他者)の傾向分析】

事前に設定した9つのスキルに関して、強化すべき必要性の高さを確認した。以下では、「資金の受け手」の当事者とそれ以外の回答者に分け、それぞれのスキルを強化する必要性が「高」と選択した回答者の比率を集計した。また、「資金の受け手」当事者とそれ以外の回答者を比較し、共に選択率が高いスキル(●)、共に選択率が低いスキル(■)、当事者とそれ以外で回答にばらつきがある(▲)ところをハイライトしている。

C-2. 資金の受け手が強化すべきスキル「高」の選択率



「資金の受け手」が強化すべき必要性が高いスキル（設問C）

【理由の記述・個別意見】

前頁では選択式回答の定量的な傾向分析を行ったが、その傾向の裏にある意見の多様性を理解するため、以下では必ずしも全体傾向とは合致しない意見も含めて、ヒアリングやアンケートを通じて得た個別意見を抜粋して紹介する。

((2)ESG個別課題の具体的知識を強化すべき必要性が高いと選択したのは、) 自社の取組みやESG関連資金調達がESGウォッシュでないかを検討するだけの知識、人材が不足している感が否めないため。

-資金の出し手(運用会社)関係者

((1)金融の役割に関する知識と(6)金融サービスを発案(活用)するスキルを強化する必要性が高いと選択したのは、) 企業であれば経済的価値向上のストーリーを構築できるファイナンス面のスキルを自ら獲得すべきと思うため。しかし、金融機関任せだから上手く行かない部分が多いのが現状。

-資金の受け手(事業会社)関係者

基本、全てのスキルが必要と思われるが、(1)金融の役割に関する知識、(3)技術的な知識、(5)市場動向や規制の知識、(6)金融サービスを発案(活用)するスキルは相対的に優先度が低いと思われる。しかし、今後ISSB対応も期待されるIFRS基準に基づいた開示の主担当は一般的には経理部であり、潜在的な価値の発信はサステナビリティ担当者が行うことが多く、双方の交わりが少なく対話先も異なることは課題と言えるだろう。

-資金の受け手(事業会社)関係者

((7)サステナブル経営を実行するスキル、(8)ステークホルダーとの対話スキル、(9)情報収集を課題特定や発想に繋げるスキルを優先的に強化すべきと選択したのは)

今ある事実の知識も重要だが、ステークホルダーとの協働による新しい発想の方が重要だと考えたため。

-仲介者(コンサルタント)関係者

((1)金融の役割に関する知識、(4)社会への影響などを考慮する、哲学・思考力、(5)市場動向や規制の知識、以外のスキルを優先的に強化すべきと選択したのは)

脱炭素を実現させる主要なアクターである資金の受け手側は、金融の知識より、技術的な面やどのようにして脱炭素への移行が可能かのその企業の専門スキル・知識が問われるため。

-仲介者(コンサルタント)関係者

金融データを事業リスクの軽減に向けて活用できること、金融工学とESG要素の繋がりを理解している資金の受け手側が少ないため、(1)金融の役割に関する知識、(3)技術的な知識(理系)を強化すべき。

-評価会社(評価会社)関係者

「資金の受け手」が強化すべきスキル（設問C）

【その他強化すべきスキルに関する自由記述傾向】

事前に定めた9つのスキル以外に「資金の受け手」が強化すべきスキルを尋ねたところ、以下のような回答傾向がみられた。

経営レベルの 判断・洞察・構想力	<p>一過性の資金調達のためのESG要素考慮にならず、日々変わって行く法制度や状況に振り回されずに、企業自らがオーナーシップを持った形での長期の姿勢を期待した回答が寄せられた。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 経営判断を自ら行う力・ 今後10～20年を見据え、あらゆる状況を想定したシナリオ分析力・ 社会を俯瞰する洞察力・ 環境・社会課題に関わるリスクと機会を踏まえた中長期戦略を立案する構想力・ ESG経営がどの様に企業価値向上につながるかの具体的な整理・ 社会課題と自社の関係性を想像できる力・ 国際的な動向や視点に関する感応度
実務レベルで 知見を活用する能力	<p>環境や社会要素(非財務資本)を財務資本に置き換え、企業価値向上に繋げていく力への言及が散見された。また、9つのスキルでは金融の役割や商品に関する知識は高く求められていない結果となったが、こちらの設問の回答には、コーポレートファイナンスなど、基礎知識を前提として求める回答も寄せられた。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 投資とリターンを論理的に説明できるレベルのコーポレート・ファイナンスへの知見・ 非財務資本を財務資本に置き換える能力・ 開示の重要性に関する知見・ 多言語での情報収集力
連携・協働する力	<ul style="list-style-type: none">・ (ESG担当者だけでなく)PR、IR部門との連携・ 他社や業界団体と協業するスキル
対話・発信力	<p>「資金の出し手」同様、特に日本語以外で発信できる力への言及があった。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 語学(英語)力・ 多言語での発信力・ 情報開示スキル

【対象別分析】

3. 仲介者（コンサルタント/アドバイザー）

- 求める役割（全体傾向）
- 強化すべきスキル（選択肢設問の傾向分析）
- 強化すべきスキル（理由の記述、個別意見）
- その他強化すべきスキル

「仲介者」に求める役割(設問B)

【自由記述式・全体傾向】

「仲介者」に求める役割を設問Bで尋ねたところ、主に以下のキーワードにまとめられるような傾向が確認された。

コンサルティング業務を「お金儲けの手段にせず」、「資金調達ありきのESGウォッシュになるような案件を起案しないこと」や「一部を除き疑問が多いので質の担保を」求める役割とする声が挙げられた。こうした「仲介者」に対する厳しめの意見も寄せられる中、「仲介者」に属する回答者からは「小手先の情報開示支援ではなく」、「本質的なサステナビリティを実行するため」のアドバイスなど、質の高いアドバイスを提供する重要性を強調した回答も同時に寄せられた。

<p>双方を正しく 理解した橋渡し役</p>	<p>「仲介者」に属する回答者を中心に、資金の出し手と受け手、双方の考え方を正しく理解し、両者の橋渡しの役割を求める声が寄せられた。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 資金の出し手と受け手の橋渡し役 • トランジション・ファイナンスなど、各々の専門家に繋ぐ橋渡し役
<p>高い専門知識に基づく 助言・サポート</p>	<p>サステナブルファイナンスの重要性を資金の受け手に伝えるほか、社会課題解決に向けてビジネスモデル作りやインパクトの可視化、経営の在り方の視点など、主に資金の受け手に対する助言やサポートの役割が求められた。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 資金の受け手に対するサステナブルファイナンスの重要性の理解促進 • 経済的リターンと社会的インパクトの両立を前提としたコンサルティング • 各社の状況に適した実現可能な施策のアドバイス • 社会課題解決のためのビジネスモデル作り、社会的インパクトの可視化 • データプラットフォームを利用した分析とモデル構築 • ビジネスモデルの循環を考慮した資金調達の提案等 • 長期視点でPDCAを回せるような助言 • 持続的な社会構築と企業成長に繋がる本質的な経営の在り方に対する支援 • グローバルな潮流、産業や資本市場の状況を含め、深く高い専門知識を求める声
<p>ウォッシング回避</p>	<p>「仲介者」自らがウォッシュの原因とならないよう注意する声と共に、「資金の受け手」によるESGウォッシュ回避に貢献する役割が求められた。</p> <ul style="list-style-type: none"> • (資金の受け手の活動に対する)ウォッチドッグとしての役割 • サステナブルファイナンス対象となるプロジェクトの適格性の評価

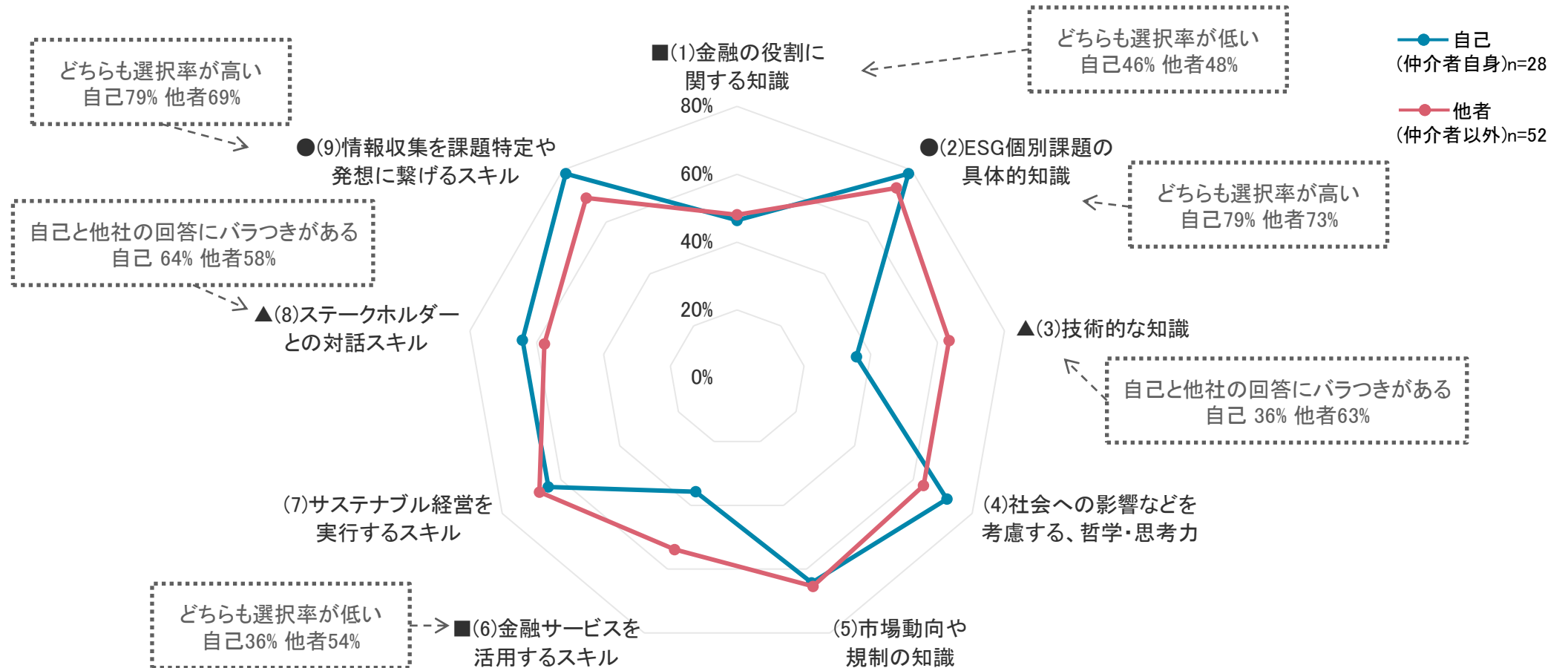
※コンサルティング業務は、サステナビリティ経営に特化した独立系のコンサルティング会社や監査法人に加え、証券会社や銀行など、その役割を担う組織が増えている。サステナブルな事業とそれを支えるファイナンスとの関係においても、投資家向けの統合報告やサステナビリティ情報開示支援、GHG排出量の算出、ESG関連債発行支援など、その業務は多岐に渡る。細かく分類した調査も十分に考えられる。

「仲介者」が強化すべき必要性が高いスキル（設問C）

【当事者(自己)とそれ以外(他者)の傾向分析】

事前に設定した9つのスキルに関して、強化すべき必要性の高さを確認した。以下では、「仲介者」の当事者とそれ以外の回答者に分け、それぞれのスキルを強化する必要性が「高」と選択した回答者の比率を集計した。また、「仲介者」当事者とそれ以外の回答者を比較し、共に選択率が高いスキル(●)、共に選択率が低いスキル(■)、当事者とそれ以外で回答にばらつきがある(▲)ところをハイライトしている。

C-3. 仲介者が強化すべきスキル「高」の選択率



「仲介者」が強化すべき必要性が高いスキル（設問C）

【理由の記述・個別意見】

前頁では選択式回答の定量的な傾向分析を行ったが、その傾向の裏にある意見の多様性を理解するため、以下では必ずしも全体傾向とは合致しない意見も含めて、ヒアリングやアンケートを通じて得た個別意見を抜粋して紹介する。

銀行関係者としては、コンサルタントを利用する側、コンサルティング業務を提供する側の2側面がある。外部のコンサルタントを利用する側としては、金融機関には元々無い知識として、(2)ESG個別課題の具体的知識、および(3)技術的な知識を補足して欲しい。また、コンサルティング業務を提供する側としては、(2)ESG個別課題の具体的知識と(5)市場動向や規制の知識が期待されている前提知識と認識している。

-資金の出し手(銀行)関係者

(1)金融の役割に関する知識や(3)技術的な知識に関しては、表面的な知識に留まっていることが多いため、強化して欲しい。また、アドバイザー側が金融商品の組み立て方を理解していないため、資金の受け手への説明が十分に出来ず、情報不足にも繋がっていると思われるため、(6)金融サービスを発案(活用)するスキルや(9)情報収集を課題特定や発想に繋げるスキルを強化すべきだろう。

-評価機関(評価機関)関係者

企業の経営者としては、全ての立場のプロの声を聴き、理解することが期待されている。そのため、企業関係者はコンサルタントに同様のスキルを求めており、全ての項目において強化する必要があると思っている。但し、それは一人の人が全てを備えている、ということではなく、それぞれのコンサルタントがそれぞれのプロフェッショナルであり、総合的に全てのスキルを持ち合わせるということを意味している。

-資金の受け手(事業会社)関係者

(全てのスキルを強化すべきと選択したのは、)コンサルタントにとっては全部重要と考えるため。他方、サステナブルファイナンスのエコシステムの中でコンサルタントが特に重要という意味ではない。

-その他(教育)関係者

((5)市場動向や規制の知識、(7)サステナブルな経営を実行/提案するスキルを必要なスキルと高く感じるのは、)市場動向や規制の変化の動きが早いため、タイムリーな情報収集が必要であり、サステナブルな経営の提案を行うためには、経営者の言葉で腹落ちさせる提案力が必要と考えるから。

-仲介者(コンサルタント)関係者

((8)ステークホルダーとの対話スキルを最も強化すべきスキルと選択したのは、)コンサルタント、アドバイザーのイメージをどこに置くかで全く異なるので、対話が基本だと思ったため。大手コンサルファームは情報収集と提供を行なう印象だけれども、むしろ人権や倫理や歴史などについての理解が必要だと思われる。

-その他

尚、「仲介者」に対して追加的に強化すべきスキルに関する回答は限られていたが、持続的な企業経営に資するマネジメントやガバナンスに関する知見、複雑な内容を平易に説明する能力、行政や業界団体・会社の枠組みを超えた横断的な取り組みの推進力、などが挙げられた。

【対象別分析】

4. 評価機関

- 求める役割（全体傾向）
- 強化すべきスキル（選択肢設問の傾向分析）
- 強化すべきスキル（理由の記述、個別意見）
- その他強化すべきスキル

「評価機関」に求める役割（設問B）

【自由記述式・全体傾向】

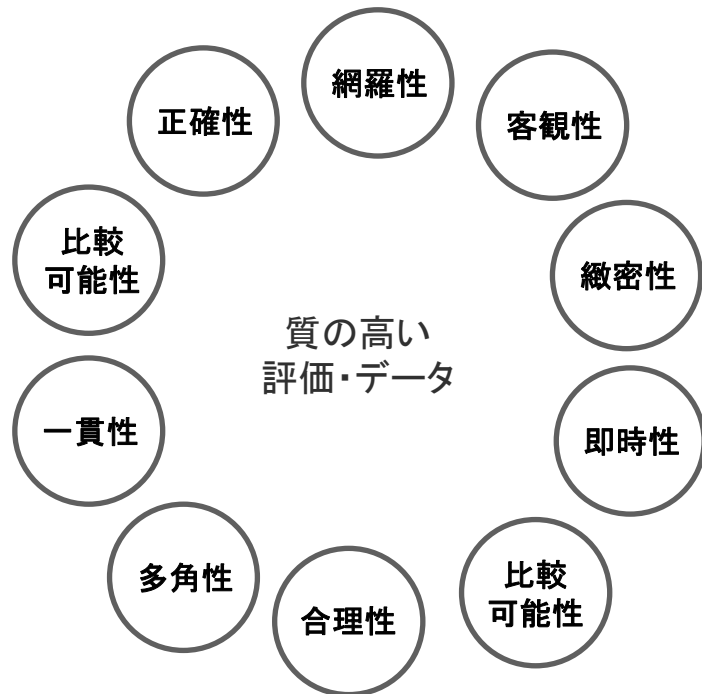
「評価機関」に求める役割を設問Bで尋ねたところ、主に以下のキーワードにまとめられるような傾向が確認された。

質の高い評価・データの提供	「質の高い評価データ」を「統一」と「多様性」の両側面から求める声（具体例は次ページ）
ウォッシング回避・独立性	<p>上記とも重なるが、ウォッシング回避のために第三者として忖度しない、独立した立場での評価を期待する声が挙げられた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 評価対象の問題ある行動の指摘 ・ 利害関係に影響されない客観的な評価 ・ 資金調達ありきのESGウォッシュな案件に対して、忖度せずにセカンドパーティオピニオンを提供 ・ 参画する各アクターが発信した情報に基づき、適切な行動を取っているかの監視・勧告・訂正
評価の知見に基づく高度な助言・サポート	<p>「資金の出し手」に属する回答者以外からは、評価情報の提供のみならず、その情報を活用した助言や、比較分析が容易に出来るツールを提供する役割を求める声が挙げられた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ データ・評価の背景、求めている情報、指標の意味、評価視点の説明 ・ ベストプラクティスや高い評価を得ている会社は何が違うか、事例の紹介と周知 ・ 可能な限りの、評価結果データのオープンソース化 ・ サステナブルファイナンスの効果の可視化 ・ 形式的なスクリーニングに留まらず、業種や企業規模など細分化した分析 ・ 経営会議でそのまま利用できるような評価結果ツールの開発 ・ 実践的に活用できるガイドライン、チェックリスト、テンプレートの提供 ・ サステナブルファイナンスの受け手への説明責任のサポート
他の関係者との誠実な対話・理解	<p>主に「資金の受け手」に対する評価手法、その限界や評価内容の説明に関わる対話を行う以外に、企業や投資家の活動内容や視点を理解することを求める声が挙げられた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 運用会社や企業を適切に理解 ・ 評価が企業に与える負担を理解 ・ 手法の開示に加えて評価の限界についての開示や説明 ・ データの責任所在を明確に説明 ・ 評価対象からの説明聴取とフィードバックの実施

尚、具体的な役割とは異なるが、評価機関に属する立場から認識している強みや弱みと、外部からの期待が整合しているかを把握したいため、こうしたお互いの認識を確認する調査の意義を感じる、との声も寄せられた。

「評価機関」に求める役割（設問B）

【質の高い評価・データが意味するもの：詳細紹介】



■「質の高いデータ」

総称すると「質の高い評価・データ」と言えるが、具体的には左図のような様々な角度から「質」を求める意見が寄せられた。

その中で、「同じ評価項目に関する組織間での評価の一貫性」を求めつつ、その上で「評価の多様性、多角性」を求めるなど、より細かなニュアンスで評価機関が提供する評価への要望が寄せられた。

■「本質的」な評価

また、こうした特徴に加えて、以下のように、評価の在り方を改めて位置付けた上で、質の高い評価の提供を期待する意見が見られた。

- ・ 小手先ではない、本質的な評価
- ・ 明確な根拠に基づいた評価
- ・ 実益との関係性に関する客観的な評価
- ・ 高尚なものではなく中小企業でも対応できる評価
- ・ 本質的にサステナビリティに取り組む組織を洗い出すことのできる評価

また、長期視点で本質的な評価が意味するものを考える材料として、「低炭素社会実現に向けた10年、20年と言った中長期的な設備投資を行っていたとしても、短期的なROEの視点から見ると内部留保がマイナスに評価されかねない。中長期目線で行っているR&Dや街づくりなど、長期的な視点から見て重要(マテリアル)な取り組みを、評価機関ももっと理解できるようになってほしい。」との回答もあった。

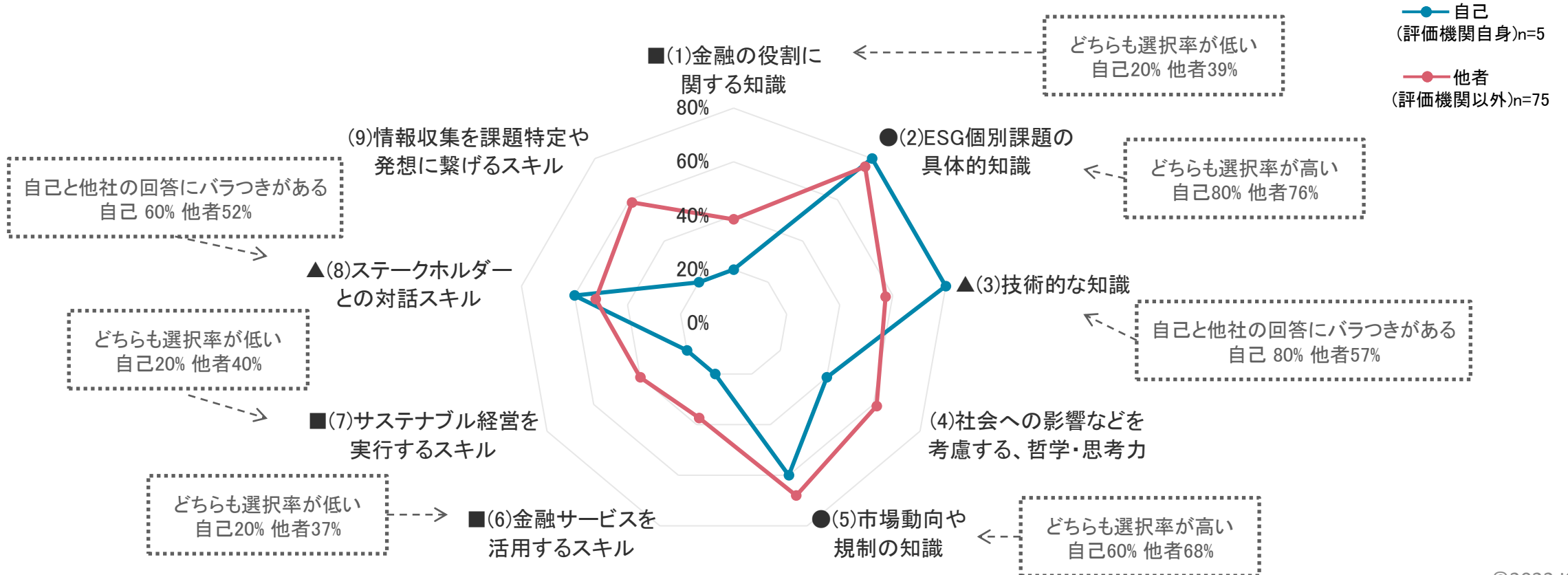
「評価機関」が強化すべき必要性が高いスキル（設問C）

【当事者(自己)とそれ以外(他者)の傾向分析】

事前に設定した9つのスキルに関して、強化すべき必要性の高さを確認した。以下では、「評価機関」の当事者とそれ以外の回答者に分け、それぞれのスキルを強化する必要性が「高」と選択した回答者の比率を集計した。また、「評価機関」当事者とそれ以外の回答者を比較し、共に選択率が高いスキル(●)、共に選択率が低いスキル(■)、当事者とそれ以外で回答にばらつきがある(▲)ところをハイライトしている。

評価機関に属する回答者が限られたため、比較分析はあくまで参考程度だが、全回答者(評価機関以外)と比較した主な傾向は以下の通りである。(3)技術的な知識は、回答者全体傾向としては決して高く無い。それでも回答者全体の6割近くが強化すべきとしており、「Cの全体傾向」で見られる通り(P13)、各関係者の中でこのスキルを強化する必要性が最も求められている結果となった。

C-4. 評価機関が強化すべきスキル「高」の選択率



「評価機関」が強化すべき必要性が高いスキル（設問C）

【理由の記述・個別意見】

前頁では選択式回答の定量的な傾向分析を行ったが、その傾向の裏にある意見の多様性を理解するため、以下では必ずしも全体傾向とは合致しない意見も含めて、ヒアリングやアンケートを通じて得た個別意見を抜粋して紹介する。

(4)社会への影響などを考慮する、哲学・思考力(文系)を持って、評価にあたって欲しい。

(1)金融の役割に関する知識と(2)ESG個別課題の具体的知識の両側面の知識をバランス良く強化して欲しい。

-資金の出し手(銀行)関係者

評価を行うプロであるために、「(1)金融の役割に関する知識」、「(6)金融サービスを理解するスキル」、「(7)サステナブル経営を実行するスキル」以外のスキルを強化して欲しい。

-資金の受け手(事業会社)関係者

((2)ESG個別課題の具体的知識]および(5)市場動向や規制の知識を特に強化すべきと選択したのは、)評価機関においては、ESG動向の最新状況を把握していることが最も重要と思われるため。

-資金の受け手(事業会社)関係者

((1)金融の役割に関する知識、(6)金融サービスを発案/活用/理解するスキルを強化する必要性が高いと選択したのは)

評価機関の役割が)金融機関の影響力が大きいことと表裏一体の存在だから。

-仲介者(コンサルタント)関係者

((1)金融の役割に関する知識、(3)技術的な知識、(5)市場動向や規制の知識、(6)金融サービスを理解するスキル以外のスキルを強化すべきと選択したのは、)

金融知識の深堀よりも、客観的で総合的な判断をできる情報を持っている必要があると考えたため。

-仲介者(コンサルタント)関係者

最近ではAIやビッグデータの活用がFintechの盛り上がりによって増えているが、その分機械では処理できない調査の限界を理解するため、(4)社会への影響などを考慮する、哲学・思考力の強化が必要。

-評価機関(評価機関)関係者

各国の規制動向の違いにより必要とするデータが異なることから、より各国の顧客のニーズに応えるため、(5)市場動向や規制の知識の強化も重要。

-評価機関(評価機関)関係者

「評価機関」が強化すべきスキル（設問C）

【その他強化すべきスキルに関する自由記述傾向】

事前に定めた9つのスキル以外に「評価機関」が強化すべきスキルを確認したところ、以下のような回答傾向が見られた。尚、「仲介者」に次いで追加的に強化すべきスキルの回答数が少ない対象者となった。

対話・発信力	<p>日本をはじめとして作成されているESG評価・データ提供機関に対する「行動規範」を念頭に入れている可能性もあるが、「資金の受け手」に対する対話に加え、監督官庁との対話力を求める声が寄せられた。</p> <ul style="list-style-type: none">• 各国の監督官庁との対話力• （資金の受け手に対する）丁寧、かつ継続的なコミュニケーション力、フォローアップ
批判的思考・倫理観	<ul style="list-style-type: none">• 資金の受け手におもねらない姿勢• 偏った評価を行わないための倫理観• 批判的思考
人材育成	<p>特定のスキルではないが、各関係者からの様々な期待に応えるため、十分なリソースを確保し、継続的に人材を育成していく必要性への言及があった。</p> <ul style="list-style-type: none">• 継続的な人材の育成、十分なリソース
事業・産業に関する 事前知識・経験	<p>評価対象となる資金の受け手の現状をより理解できるよう、ESG課題や金融知識に加え、評価対象業界での勤務経験や産業知識を求める声が寄せられた。</p> <ul style="list-style-type: none">• 持続的な企業経営に資するマネジメント・ガバナンスに関する知見• 当該業界や産業での勤務経験

【対象別分析】

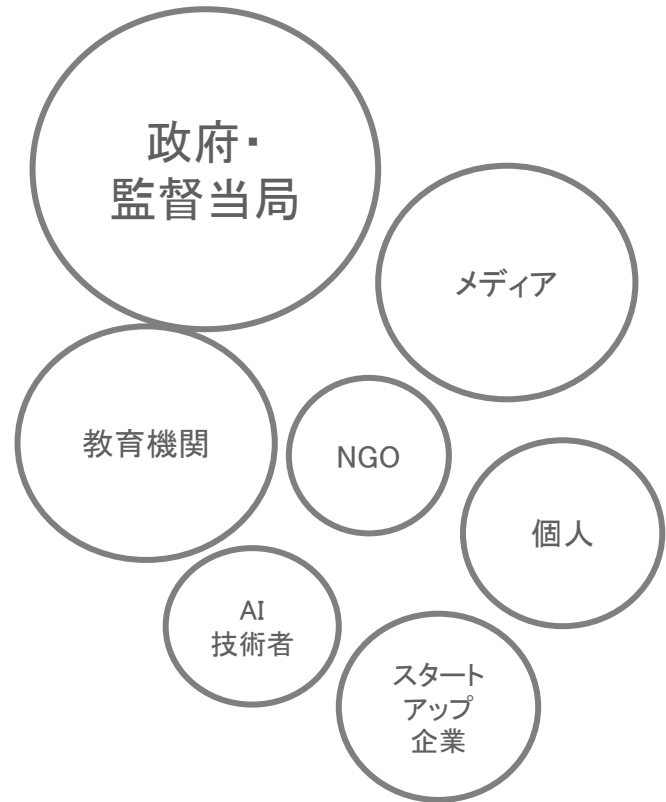
その他の関係者に期待される役割

- 求める役割
- 役割を求める理由

その他、役割が求められる関係者（設問B）

【自由記述式・全体傾向】

1)～ 4) までに挙げた資金の出し手、受け手、仲介者、評価機関以外に、サステナブルファイナンスにおいて役割が期待される関係者とその理由について、自由記述で質問を行った結果、以下のような関係者に役割を期待する声が寄せられた。



- 各関係省庁や監督当局など、政府に対して役割を期待する声が最も多く、サステナブルな日本社会の将来像を描くことから、自らの公共調達における配慮まで、幅広い役割への期待が寄せられた。
- 次いで、メディア、教育機関、NGOにおいては、健全な企業批判や情報提供、評価の役割を期待するとの回答が複数得られた。
- 教育機関では、大学、大学院、MBAコース、研究機関など、各教育機関での役割を期待する声が挙げられた。
- 資産運用の最終受益者として、そしてサステナブルファイナンスの受け手となる企業や自治体が提供する製品やサービスの最終顧客として、理解が必要と考えられるため、啓発や働きかけを行い、フィードバックを聞く対象として、「個人」に役割を期待する声も寄せられた。
- その他、AI技術者やスタートアップ企業など、新たな分野を広げて行く関係者への期待も寄せられた。

※1)～4) 関係者に含まれるが、本設問では明確に言及されていなかった、企業年金基金の母体企業、アセットオーナー（1 資金の出し手）、保証業務、支援会社（3 仲介者）、議決権助言会社（4 評価機関）の役割に期待する声も寄せられた。

その他、役割が求められる関係者（設問B）

【自由記述式・役割を求める理由】

前頁で紹介した関係者に対して、期待される役割やその理由については以下のような意見が寄せられた：

■ 各関係省庁や監督当局

- よりサステナブルな日本社会の将来像を描き、方向性を示し、説明して欲しい
- グローバルのルールメイクの場でリーダーシップを発揮して欲しい
- アセットオーナー、運用機関、金融機関などの行動規範作りの役割を担って欲しい
- グリーンウォッシュを避けるためにESG投資商品に対する指針を明確にするなど、金融商品取引法、その他の開示規制との連動を強化して欲しい
- 貸し手、借り手双方にとってインセンティブが働く税制や法制度を立案して欲しい
- 公共調達含め、政府自らがサステナブルファイナンスやカーボンニュートラルに主体的に取り組んで欲しい
- 国民の行動を促す発信、施策を実施して欲しい

■ メディア

- 限られた人ではなく、世間一般に広げるため、情報伝達媒体としての力を発揮して欲しい
- 健全な企業批判の役割を担って欲しい
- 情報提供や評価の役割を担って欲しい

■ NGO

- 健全な企業批判の役割を担って欲しい

■ 教育機関

- リスク・リターンにインパクトを加えた3次元の金融行動を正当化するファイナンス理論を確立して欲しい
- 日本の研究機関によるESG投資関連研究が乏しいため、こうした分析を行うためのデータ購入予算も確保した上で実践して欲しい
- 海外MBA講座のように、サステナブルファイナンスの実践者の供給元となる講座を実施して欲しい

■ 個人

- ファイナンスの先にある商品やサービスを最終的に享受しているのは個々の消費者。その消費者の声を資金提供の判断に活用できる可能性があるためもっと声をあげて欲しい。

■ AI技術者

- ESG情報開示を分かりやすく伝えるツールを開発して欲しい

■ スタートアップ企業

- 新たな技術やサービスを提供して欲しい。(通常は経営資源が不足しているため、特別な配慮が必要)

設問D:スキルの獲得・向上に向けて
活用・求める情報・教育機会

D-1～3：回答者が受講している・したい・推奨された講座

【自由記述式・全体傾向】

■ D1: 回答者が既に活用している外部の教材・講座・研修・資格

有効回答のうち約4割が「資金の出し手」、約3割が「仲介者」に属する方からの回答であった。「資金の出し手」に属する回答者はPRI AcademyやCFA協会が提供するアナリスト向けの講座、海外の大学が提供する講座を中心として受講していた。「仲介者」に属する回答者は、「資金の出し手」と同様なPRIに加え、国内の民間組織（非営利団体や情報通信メディア）が提供する講座を受講していると回答した。尚、正式な講座や教材とは言えないが、金融庁や経産省など、各省庁が提供する資料を参照しているとの声も寄せられた。

■ D2: 回答者が今後活用したい外部の教材・講座・研修・資格

有効回答のうち半分以上が「仲介者」に属する方による回答だった。今後学びたい領域として、気候変動、AIやデジタル技術、インパクト基準など、より具体的なテーマに沿った傾向が確認された。また、D1に引き続き、金融庁が主導する教材、講座、研修や資格を求める声も寄せられた。

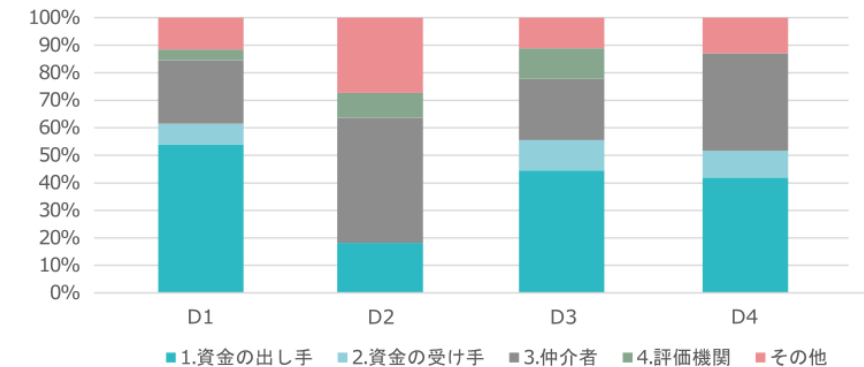
■ D3: 回答者が所属する組織で活用を推進している外部の教材・講座・研修・資格

D1～D3の中で最も有効回答が少ない設問となり、回答者の属性に偏りはなかった。PRIのように社外の組織が提供するもの以外に、既存のプログラムではなく、独自で開発しているとの回答が複数寄せられた。独自で開発している理由としては、階層別、部署別にニーズが異なるため、カスタマイズした研修が必要、などの理由があげられた。

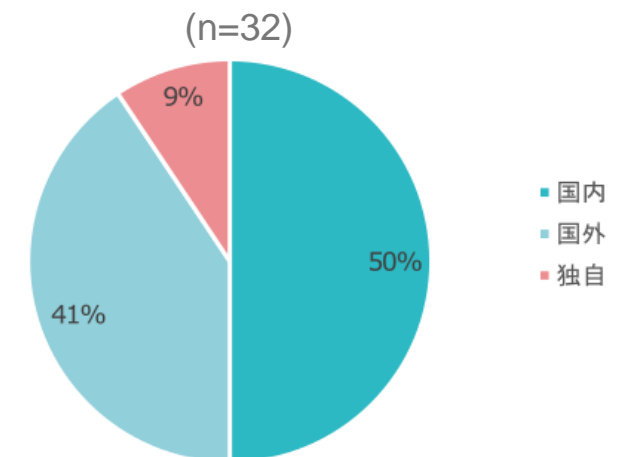
■ D1～D3を通して、言及された講座を提供している機関の国内外傾向

32の有効回答のうち、半数以上は国内機関、約4割が国外機関が提供しているものであった。国外の機関が提供している講座では、大学などの教育機関が提供しているものが目立った。関連して、設問B-5（その他役割を期待される関係者）で海外の教育機関が回答に挙げられ、サステナブルファイナンスの実務家を多く輩出しているなど、サステナブルファイナンスを深めるに当たっての教育機関の役割の大きさに言及する回答者の意見が寄せられた。他方国内では、国内の民間組織（非営利団体や情報通信メディア）などのメディアとして知られる機関が提供する講座への言及が目立ち、大学が提供しているものへの言及が皆無だった。

回答者の内訳



活用されている講座・資格等



D-1～3：回答者が受講している・したい・推奨された講座

【主な国内外講座】

■ D1～3を通じて回答者が言及した体系立てられた講座は、国内外の提供機関別に以下の通りである※

国外講座 (提供機関 アルファベット順)

- Certificate in Climate and Investing (CFA Institute)
- Certificate in ESG Investing (CFA Institute)
- Impact measurement and management for the SDGs (Duke University)
- The Fuqua School of Business, Impact Investing/Social Entrepreneurship (Duke University)
- Climate Finance (Duke University)
- PRI Academy (Principles for Responsible Investment)
- Cambridge Institute of Sustainable Leadership Sustainable Finance Course (University of Cambridge)

国内講座 (提供機関 五十音順)

- CSR検定 (オルタナ株式会社)
- SDGインパクト基準研修 (一般財団法人社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ)
- ソーシャルオーディット講座 (一般社団法人 鎌倉サステナビリティ研究所)
- ESGアナリスト講座 (一般社団法人 鎌倉サステナビリティ研究所)
- サステナビリティ検定 SDGs・ESGベーシック (一般社団法人 金融財政事情研究会)
- サステナビリティ・オフィサー (一般社団法人 金融財政事情研究会)
- 環境経営士 (一般社団法人 日本経営士会)
- ESG,SDGsコース (経済法令研究会)
- サステナビリティ情報審査人 (サステナビリティ情報審査協会)
- ECO検定 (東京商工会議所)
- 【ICMA共催】エグゼクティブ・トレーニングコース (日本証券業協会)
- 評価士養成講座・認定 (日本評価学会)
- 日経MBA (日本経済新聞社)

※ 本調査では、これらそれぞれの講座の是非は判断せず、回答者から得た情報をそのまま掲載しています。

D-4 : サステナブルファイナンスに関連した便利な情報源

【自由記述式・全体傾向】

D4では、体系立てた講座ではないが、サステナブルファイナンスに関連する有益な情報を提供しているとされる情報源に関して尋ねた。

■ 回答者傾向

- 有効回答(31)のうち、約4割が「資金の出し手」、続いて「仲介者」が35%を占めていた。(グラフはP40参照)

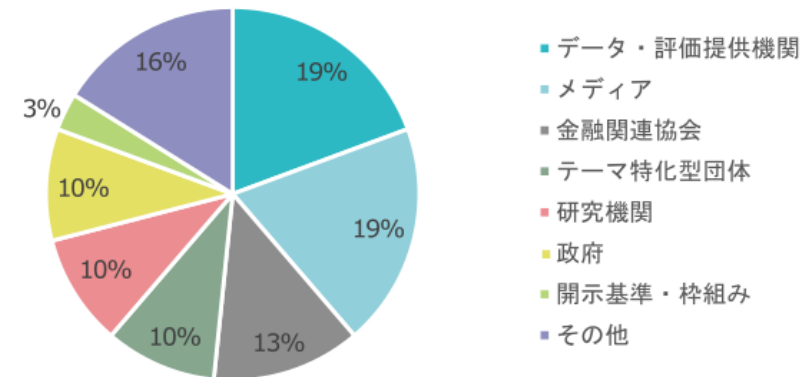
■ 活用されている情報を提供する組織の特徴

- 情報源を提供する機関を右図のように分類し、傾向を分析した。最も多い参照先の傾向は以下の通りである(詳細は次頁参照):
- ブルームバーグ、FTSE Russellなど主要なグローバルなデータ・評価提供機関が最も参照先として回答が多かった。
- 続いてサステナブル経済・金融の情報に長けていると思われる Responsible Investor、Sustainable Japanなど、国内外のメディア機関が参照された。
- 金融関連協会としては、講座も提供しているPRIのほか、ICMAや日本サステナブル投資フォーラムのサイトや白書を参照先として挙げた。

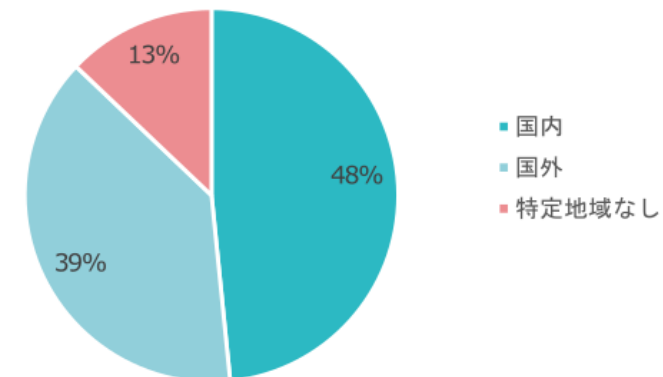
■ 活用されている情報源の国内外比率

- 情報源の提供元機関は国内が約5割、国外が約4割、残りは特定の地域に所属しない情報源となった。

発信元機関 (n=31)



情報源元組織の国内外割合 (n=31)



D-4 : サステナブルファイナンスに関連した便利な情報源

【主な国内外情報源】

各情報源の提供元機関の一覧は以下の通りである※。尚、「その他」の中には、キーパーソンが各種SNSで発信する内容を確認する、などの回答がよせられた。また、金融庁をはじめとして、環境省、経産省など各省庁で実施しているワーキンググループや有識者会議で公表された資料や議事録を参照しているとの回答が複数寄せられた。

データ・評価提供機関

- Bloomberg
- Bloomberg NEF
- FTSE Russell
- MSCI
- Sustainalytics

テーマ特化型団体

- Access to Nutrition Website
- CDP
- Japan Clean Ocean Material Alliance (CLOMA)

メディア

- Responsible Investor
- Sustainable Japan
- 株式会社オルタナ
- 日経ESG
- 日本経済新聞社が主催する各種講演

研究機関

- 環境金融研究機構
- 公益財団法人 地球環境戦略研究機関 (IGES)
- 日本経営倫理学会 ESG投資・SDGs研究部会

金融関連協会

- Principles for Responsible Investment
- The International Capital Market Association (ICMA)
- 日本サステナブル投資フォーラム(JSIF)

開示基準・枠組み設定機関

- International Sustainability Standards Board (ISSB)

※ 本調査では、これらそれぞれの情報源の是非は判断せず、回答者から得た情報をそのまま掲載しています。

おわりに：調査を踏まえた提言

本調査の分析を行うにあたり、分析者による見解は極力含めずに客観的に分析することに努めた。また、全体傾向に必ずしも沿わない回答者の個別意見も意図的に紹介しているため、総論が見えにくいところもあるだろう。しかし、こうした分析手法を取ることで、サステナブルファイナンスの発展が過渡期にあるなかで存在する意見の多様性への理解を深めることを目指した。

最後にここまでの分析結果を踏まえ、サステナブルファイナンスの発展を支える人材の育成に向けて、3点の提案を考察と共に整理する。

サステナブルファイナンスの実践(提供)と活用に向けて…

➤ 提言①: WHYを問える哲学、思考力を醸成する重要性の認識を新たに

設問B(役割)の記述における言及、設問C(スキル)の選択肢への回答を通じて、全体的に「社会への影響などを考慮する、哲学・思考力」を強化する必要性に重きを置く傾向にあり、科学的な知識に伴わせて実務において必要なスキルとして認識されていることが伺えた。

今回の調査では、どの関係者に対しても、ESG・グリーンを謳いながら実態の伴っていない資金調達や評価などの「ウォッシング」を防ぐ必要性に言及があった。また、正確、中立、公正な情報開示や判断を行うことも各関係者に対して求める声も寄せられた。AI技術の発展と活用、社会情勢の変化などに伴い「正確・中立・公正」が意味するものが日々問われる中、その判断の軸となる信念や哲学の存在が益々重要になると考えられる。

サステナブルファイナンスに携わる現場において、各々の活動の意義や自らが所属する組織の影響力を理解し、ステークホルダーとの円滑なコミュニケーションを行うための倫理的・哲学的な思考力を醸成することが必要と思われる。また、今後サステナブルファイナンスに即した教育機会を構築する際には、科学的な知識に伴わせてこうしたWHYを問う教育機会を強化していくことも重要と思われる。

おわりに：調査を踏まえた提言

➤ 提言②：金融の役割や商品を理解する必要性の見直しを：

「サステナブルファイナンスに係る金融の役割に関する知識」や、「金融商品を発案、活用するスキル」を強化する優先度は全体的に低い調査結果となった。金融に関する知識・スキルに関しては「資金の出し手」が担うものと考えられている可能性もあるが、「資金の出し手」と「資金の受け手」間に存在する知識・視点ギャップを課題視する声が、個別意見から挙げられた。

長期視点や環境・社会要素を統合して投融資判断を行っている「資金の出し手」の分析(商品化)方法と、その分析に必要となる「資金の受け手」の情報が何であるか。これを理解しなければ、資金の「受け手」が「出し手」向けに開示している情報の多くは活用されず、また、実際の取り組み内容の価値が理解されないことに繋がるだろう。このギャップを埋めるためには、今回の調査結果では強化する必要性は高くないとしたスキルが「資金の受け手」に限らず、「仲介者」や「評価機関」含め、本当に必要性が低いのかを含め引き続き議論していく余地があるだろう。

➤ 提言③：国内の大学をはじめとした高等教育機関において、サステナブルファイナンスの専門的かつ多様な教育機会の提供を：

活用しているサステナブルファイナンスに関連した講座や研修プログラムを尋ねた設問Dへの回答率は予想以上に少なく、また特に講座提供機関としての大学に関しては国外に偏った回答となった。実際は提供されているにも関わらず今回の回答者が活用、認識していないことも考えられるが、全体的にまだ、国内教育機関には十分にサステナブルファイナンスに関する教育機会が存在しない、またはニーズに合っていないことも考えられるだろう。設問B-5で役割が求められる対象として「教育機関」が挙げられており、大学をはじめとして更に教育機会が提供されることを期待する。

他方、設問D-3で所属する組織が推奨している研修機会は全体的に少ないものの、独自に開発しているとの声はアンケート回答者、インタビューの両方から聞かれた。研修プログラムや講座を開発する教育機関においては、エコシステムの全体像が理解できる網羅的で受講対象範囲が広い講座に加え、銀行や運用会社と言った個別業界、組織内の階層、役割、所属部署など、よりカスタマイズされた教育機会のニーズにどのように答えて行くかも考える必要があるだろう。

本調査は、性別・年代・職業の観点から多様な80名のアンケート回答者と5つのインタビューにご協力頂き、それに基づいて分析を行った。この報告書が、サステナブルファイナンスの実践(提供)と活用において必要とする人物像、スキル、そして教育機会に関して、組織内、業界内、そして個々人において考えるきっかけとなれば、一定の役割を果たしたと言えるだろう。更にそれぞれの関係者に個別に焦点を当てた深堀調査のきっかけとなり、持続可能な環境・社会の構築に貢献する金融の提供と活用の好循環が更に進められることを期待したい。

Appendix

回答者が受講している・したい・推奨された講座（主な国内外講座）詳細

- ・他の設問に比べて平均回答率が低く、適した教育機会は限られていることが伺えた。
- ・国外の機関が提供している講座では、大学などの教育機関が提供しているものある一方、国内の大学機関の講座はこれからの発展が期待される。
- ・金融庁が主導する教材、講座、研修や資格を求める声も寄せられた。

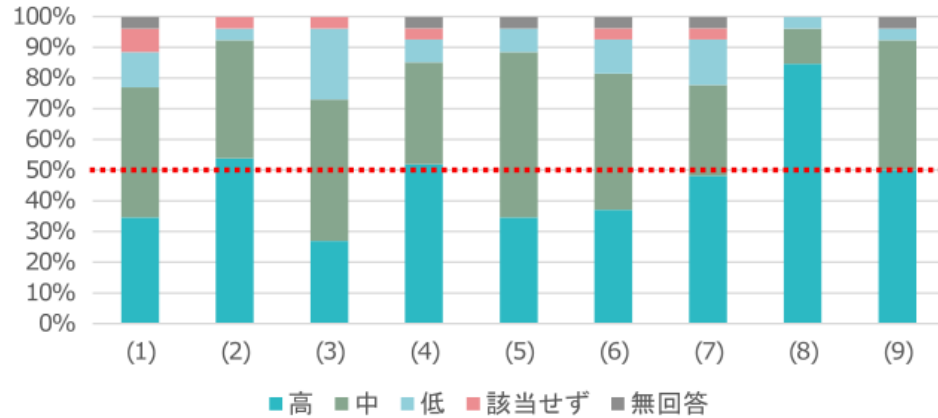
団体名	講座名	国内外	提供者	URL
Cambridge Institute	Cambridge Institute for Sustainability Leadership Sustainable Finance online short course	海外	大学	https://www.cisl.cam.ac.uk/education/learn-online/sustainable-finance-online
CFA Institute	Certificate in Climate and Investing	海外	協会	https://www.cfauk.org/study/certificate-in-climate-and-investing#gsc.tab=0
CFA Institute	Certificate in ESG Investing	海外	協会	https://www.cfainstitute.org/en/programs/esg-investing
Chartered Financial Analyst Institute (CFA)	Climate Finance	海外	協会	https://store.cfainstitute.org/climate-finance/
Duke University	Impact measurement and management for the SDGs	海外	大学	https://jp.coursera.org/learn/impact-for-sdgs
Duke University The Fuqua School of Business	Impact Investing/Social Entrepreneurship	海外	大学	https://www.fuqua.duke.edu/
Principles for Responsible Investment (PRI)	PRIアカデミー	海外	協会	https://priacademy.org/
オルタナ株式会社	CSR検定	国内	メディア	https://csr-kentei.alterna.co.jp/exam/
サステナビリティ情報審査協会	サステナビリティ情報審査人	国内	協会	http://j-sus.org/kenshu.html
一般財団法人社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ	SDGインパクト基準研修	国内	その他	https://simi.or.jp/sdgimpact-training/
一般社団法人 鎌倉サステナビリティ研究所	ESGアナリスト講座	国内	その他	https://www.kamakurasustainability.com/esg
一般社団法人 鎌倉サステナビリティ研究所	ソーシャルオーディット講座	国内	その他	https://www.kamakurasustainability.com/social-audit
一般社団法人 金融財政事情研究会	サステナビリティ・オフィサー	国内	協会	https://www.kinzai.or.jp/kentei/5j2.html
一般社団法人 金融財政事情研究会	サステナビリティ検定 SDGs・ESGベーシック	国内	協会	https://www.kinzai.or.jp/kentei/5j1.html
一般社団法人 日本経営士会	環境経営士	国内	その他	https://www.compact-eco.com/
経済法令研究会	ESG,SDGsコース	国内	その他研究機関	https://www.khk.co.jp/course/course_detail.php?id=53978
東京商工会議所	ECO検定	国内	その他	https://kentei.tokyo-cci.or.jp/eco/
日本評価学会	評価士養成講座・認定	国内	その他研究機関	http://evaluationjp.org/activity/training.html

強化すべきスキル「高・中・低・該当せず・無回答」の割合一覧【自己/他者】

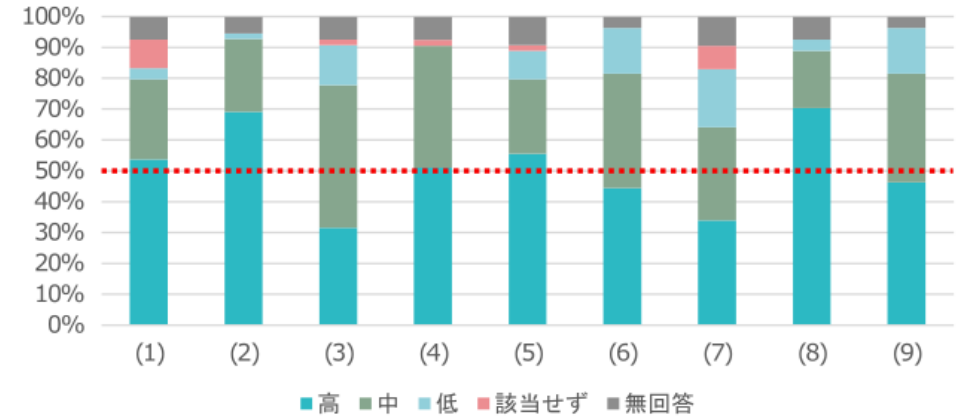
(1)金融の役割に関する知識、(2)ESG個別課題の具体的知識、(3)技術的な知識、(4)社会への影響などを考慮する、哲学・思考力、(5)市場動向や規制の知識、(6)金融サービスを発案(活用)するスキル、(7)サステナブル経営を実行するスキル、(8)ステークホルダーとの対話スキル、(9)情報収集を課題特定や発想に繋げるスキル

資金の出し手

C-1: 資金の出し手が強化すべきスキル
自己(資金の出し手自身) n=26

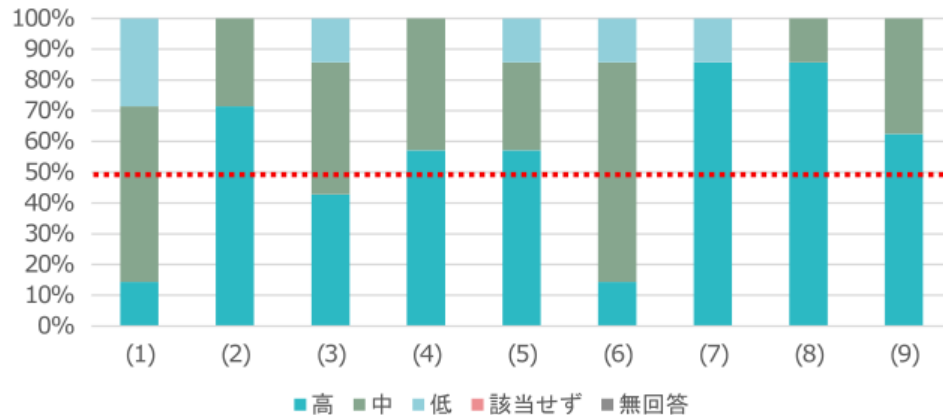


C-1: 資金の出し手が強化すべきスキル
他者(資金の出し手以外) n=54

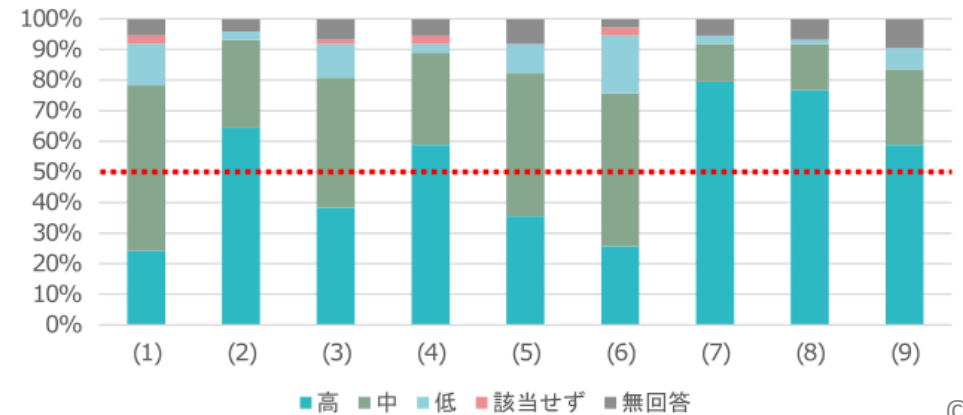


資金の受け手

C-2: 資金の受け手が強化すべきスキル
自己(資金の受け手自身) n=7



C-2: 資金の受け手が強化すべきスキル
他者(資金の受け手以外) n=73

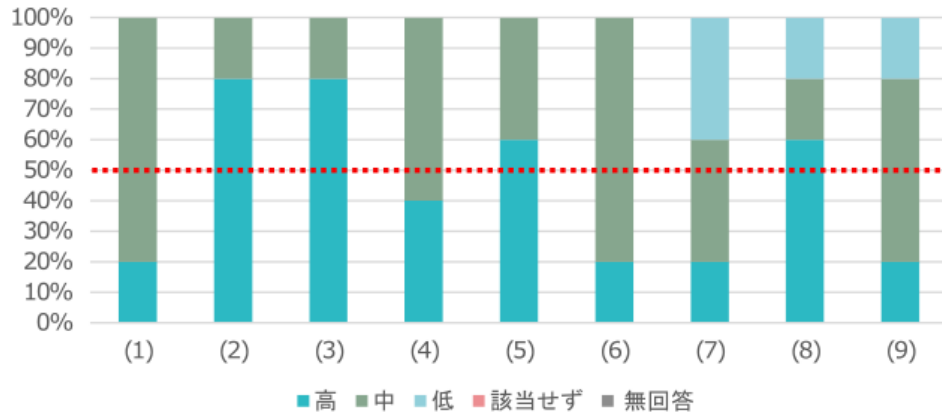


強化すべきスキル「高・中・低・該当せず・無回答」の割合一覧【自己/他者】

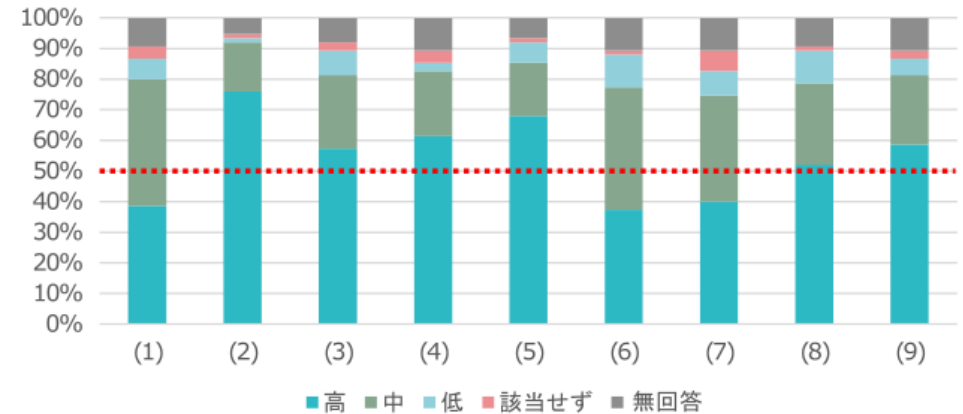
(1)金融の役割に関する知識、(2)ESG個別課題の具体的知識、(3)技術的な知識、(4)社会への影響などを考慮する、哲学・思考力、(5)市場動向や規制の知識、(6)金融サービスを発案(活用)するスキル、(7)サステナブル経営を実行するスキル、(8)ステークホルダーとの対話スキル、(9)情報収集を課題特定や発想に繋げるスキル

評価機関

C-4: 評価機関が強化すべきスキル
自己(評価機関自身) n=5

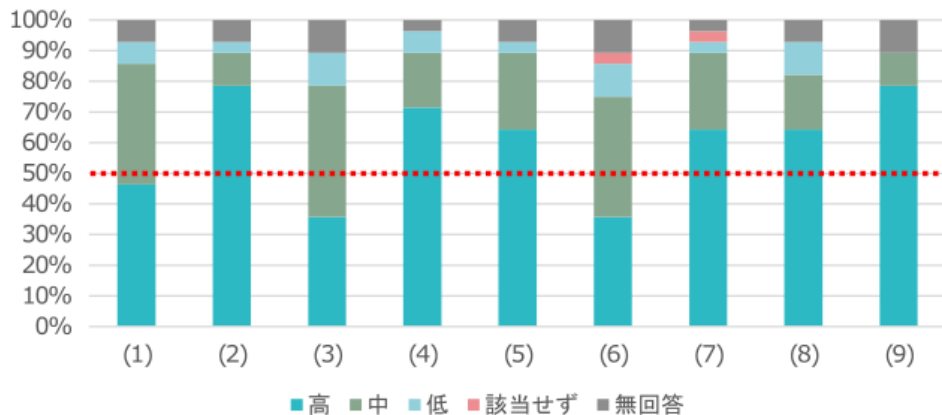


C-4: 評価機関が強化すべきスキル
他者(評価機関以外) n=75

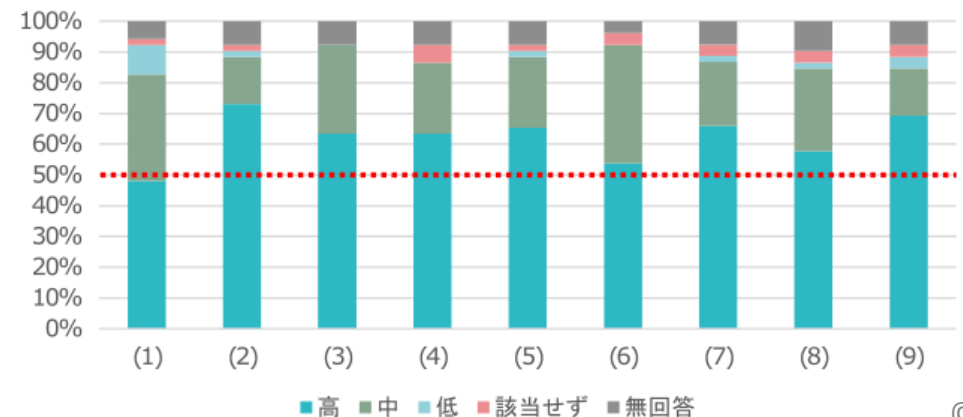


仲介業者

C-3: 仲介者が強化すべきスキル
自己(仲介者自身) n=28



C-3: 仲介者が強化すべきスキル
他者(仲介者以外) n=52



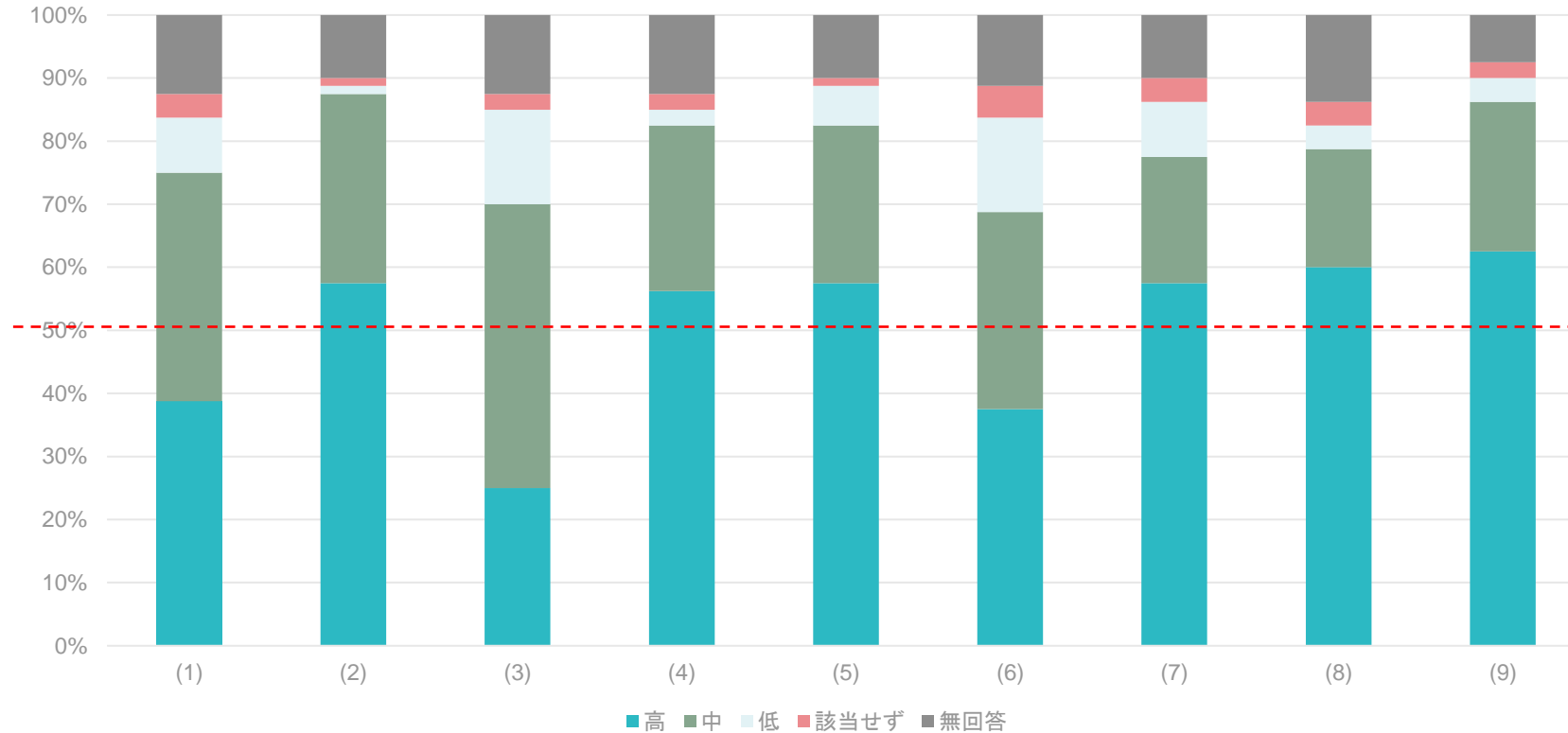
(参考)設問C-5:

あなた自身が、最も必要と感じているスキル「高・中・低・該当せず・無回答」の割合一覧

(1)金融の役割に関する知識、(2)ESG個別課題の具体的知識、(3)技術的な知識、(4)社会への影響などを考慮する、哲学・思考力、(5)市場動向や規制の知識、(6)金融サービスを発案(活用)するスキル、(7)サステナブル経営を実行するスキル、(8)ステークホルダーとの対話スキル、(9)情報収集を課題特定や発想に繋げるスキル

所属する組織に必要なスキルと「自身」が必要とするスキルに違いがあると考えられるが、独立した分析はせず、あくまで参考として掲載。

C-5 あなた自身が最も必要と感じているスキル
全体回答



アンケート設問表

サステナブルファイナンス実践と活用において求められている人材像とスキル

サステナブルファイナンス・エコシステム: 求める人材と教育機会

持続可能な社会の構築に貢献する金融(サステナブルファイナンス)が良い形で機能するためには、関係者(企業・投資家・評価機関・アドバイザーなど)が十分な知識を身に着けることが不可欠です。金融庁サステナブルファイナンス有識者会議においても、サステナブルファイナンスの実施のために実務的に必要とされる知見・技能を実務家が獲得していくことは、重要事項の一つとして認識され、必要なスキルの議論も始まっています。

それぞれの関係者に求められるスキルやケイパビリティは、具体的にどのようなものなのか。また、関係者個々人は、スキルの獲得・向上に向けて、具体的にどのような情報・教育機会を求めているのか。現状、どのような研修プログラムや情報が提供されているのか。

本調査では、これらを明らかにすることで、サステナブルファイナンス関係者の学びと実践を支援し、また各種教育機会の活用と発展に寄与する提案を行うことを目的としています。

この調査の趣旨にご賛同いただいた場合は、ご回答、拡散にぜひご協力ください。

回答期限: 2022年11月30日(水)

※設問は4パート(A,B,C,D)+基本質問です

※頂いた個人情報の本目的のためにだけ使用され、その他の第三者に提供することはありません。

調査監修・執筆者: 岸上有沙氏

調査実施団体: 一般社団法人鎌倉サステナビリティ研究所

【エクセルでの回答方法】

下記設問にご回答頂き、メールにこのエクセルを添付してご提出ください。

宛先: survey@kamakurasustainability.com

件名: SF: アンケート回答

本文: 無記入でかまいません。

※オンラインでの回答は下記よりアクセスしてください。

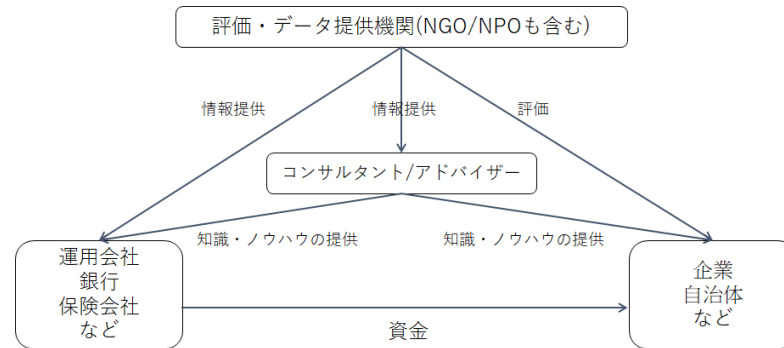
アンケート設問表

【Aパート】現在のお仕事についてお伺いします。

※必須回答	A-1:	年代	選択式
※必須回答	A-2:	性別	選択式
※必須回答	A-3:	現在の職業について教えてください。	選択式
※必須回答	A-4:	現在、サステナブルファイナンスとの接点がありますか？	選択式
※必須回答	A-5:	現在の主な職種について教えてください。	選択式
	A-6:	宜しければ、あなたの仕事内容について具体的に教えてください。	記述式

【Bパート】サステナブルファイナンスが持続社会の構築に貢献するために、あなたが考える、各組織に期待する役割についてお伺いたします。質問の対象となる組織に所属している場合は、期待されていると思われる役割についてお答えください。

参考)サステナブルファイナンス関係者 全体図



- B-1: 記述式 サステナブルファイナンスの出し手となる運用会社、銀行、保険会社などに、一番求めている役割は何ですか？
"こちらに記述してください⇒"
- B-2: 記述式 サステナブルファイナンスの受け手となる企業、自治体などに、一番求めている役割は何ですか？
"こちらに記述してください⇒"
- B-3: 記述式 サステナブルファイナンスの活用を仲介するコンサルタント/アドバイザーに一番求めている役割は何ですか？
"こちらに記述してください⇒"
- B-4: 記述式 サステナブルファイナンスに必要なデータ・評価機関(NPO/NGOの場合も含む)に一番求めている役割は何ですか？
"こちらに記述してください⇒"
- B-5: 記述式 その他、サステナブルファイナンスの実践において役割が期待される関係者が思いつく場合、理由と共に教えてください
"こちらに記述してください⇒"

アンケート設問表

【Cパート】下記(1)～(9)の知識・スキル・素質について、それぞれの立場で必要だと考える優先度(高・中・低)を教えてください。
(各回答につき1つだけ選択ください。)

※こちらの選択肢には、金融庁サステナブルファイナンス有識者会議資料、「スキルマップ(素案)」を参照しています。こちらも「素案」であり、議論の過程にあるマッピングですが、宜しければ原文もご参照ください。(https://www.fsa.go.jp/singi/sustainable_finance/siryou/20220920/02.pdf) P15

《スキル》

- (1) サステナビリティに関わる金融の役割に関する知識
- (2) 環境(E)、社会(S)、ガバナンス(G)の個別課題に関する具体的な知識
- (3) 気候変動への対応技術に役立つサイエンスなど、技術的な知識(理系)
- (4) 地政学的な背景やAI活用における人や社会への影響などを考慮する、哲学・思考力(文系)
- (5) サステナブルファイナンスに関する市場動向や規制に関する知識
- (6) サステナブルファイナンスを効果的に活用した金融サービスを発案(活用)するスキル
- (7) 自らの組織においてサステナブルな経営を設計、実現するスキル
- (8) 各種ステークホルダーと目的を明確にした対話を行うスキル
- (9) 幅広い領域の動向に意識を向けて情報収集をし、新たな課題特定や発想に繋げるスキル

C-1: 資金提供側(運用会社、銀行、保険会社など)において今最も強化すべきスキルは何ですか。
優先順位(高・中・低・該当せず)を教えてください。(それぞれ1つだけお選びください。)

- | | |
|-----------------------------|-----|
| (1)金融の役割に関する知識 | 選択式 |
| (2)ESG個別課題の具体的な知識 | 選択式 |
| (3)技術的な知識(理系) | 選択式 |
| (4)社会への影響などを考慮する、哲学・思考力(文系) | 選択式 |
| (5)市場動向や規制の知識 | 選択式 |
| (6)金融サービスを発案するスキル | 選択式 |
| (7)サステナブル経営を実行するスキル | 選択式 |
| (8)ステークホルダーとの対話スキル | 選択式 |
| (9)情報収集を課題特定や発想に繋げるスキル | 選択式 |

上記以外で、資金提供側に必要だと感じる知識・スキル・素質があれば記載ください。 記述式 こちらに記述してください⇒
上記の優先順位を回答した理由を教えてください。 記述式 こちらに記述してください⇒

アンケート設問表

C-2: 資金の受け手側(企業/自治体など)において今最も強化すべきスキルは何ですか。

優先順位(高・中・低・該当せず)を教えてください。(それぞれ1つだけお選びください。)

(1)金融の役割に関する知識	選択式	
(2)ESG個別課題の具体的知識	選択式	
(3)技術的な知識(理系)	選択式	
(4)社会への影響などを考慮する、哲学・思考力(文系)	選択式	
(5)市場動向や規制の知識	選択式	
(6)金融サービスを活用するスキル	選択式	
(7)サステナブル経営を実行するスキル	選択式	
(8)ステークホルダーとの対話スキル	選択式	
(9)情報収集を課題特定や発想に繋げるスキル	選択式	
上記以外で、資金の受け手側に必要だと感じる知識・スキル・素質があれば記載ください。記述式		こちらに記述してください⇒
上記の優先順位を回答した理由を教えてください。記述式		こちらに記述してください⇒

C-3: コンサルタント/アドバイザーにおいて今最も強化すべきスキルは何ですか。

優先順位(高・中・低・該当せず)を教えてください。(それぞれ1つだけお選びください。)

(1)金融の役割に関する知識	選択式	
(2)ESG個別課題の具体的知識	選択式	
(3)技術的な知識(理系)	選択式	
(4)社会への影響などを考慮する、哲学・思考力(文系)	選択式	
(5)市場動向や規制の知識	選択式	
(6)金融サービスを理解するスキル	選択式	
(7)サステナブル経営を提案するスキル	選択式	
(8)ステークホルダーとの対話スキル	選択式	
(9)情報収集を課題特定や発想に繋げるスキル	選択式	
上記以外で、コンサルタント/アドバイザーに必要だと感じる知識・スキル・素質があれば記載ください。記述式		こちらに記述してください⇒
上記の優先順位を回答した理由を教えてください。記述式		こちらに記述してください⇒

アンケート設問表

C-4: 評価機関に従事する方において今最も強化すべきスキルは何ですか。

優先順位(高・中・低・該当せず)を教えてください。(それぞれ1つだけお選びください。)

- | | | |
|-----------------------------|------------------|-----|
| (1)金融の役割に関する知識 | 選択式 | |
| (2)ESG個別課題の具体的知識 | 選択式 | |
| (3)技術的な知識(理系) | 選択式 | |
| (4)社会への影響などを考慮する、哲学・思考力(文系) | 選択式 | |
| (5)市場動向や規制の知識 | 選択式 | |
| (6)金融サービスを理解するスキル | 選択式 | |
| (7)サステナブルな経営を提案するスキル | サステナブル経営を実行するスキル | 選択式 |
| (8)ステークホルダーとの対話スキル | 選択式 | |
| (9)情報収集を課題特定や発想に繋げるスキル | 選択式 | |

上記以外で、評価機関に必要なだと感じる 知識・スキル・素質があれば記載ください。 記述式 こちらに記述してください⇒

上記の優先順位を回答した理由を教えてください。 記述式 “こちらに記述してください⇒

C-5: あなた自身が、サステナブルファイナンスに関連して最も必要と感じているスキルは何ですか。

優先順位(高・中・低・該当せず)を教えてください。(それぞれ1つだけお選びください。)

- | | |
|-----------------------------|-----|
| (1)金融の役割に関する知識 | 選択式 |
| (2)ESG個別課題の具体的知識 | 選択式 |
| (3)技術的な知識(理系) | 選択式 |
| (4)社会への影響などを考慮する、哲学・思考力(文系) | 選択式 |
| (5)市場動向や規制の知識 | 選択式 |
| (6)金融サービスを発案/活用/理解するスキル | 選択式 |
| (7)サステナブルな経営を実行/提案するスキル | 選択式 |
| (8)ステークホルダーとの対話スキル | 選択式 |
| (9)情報収集を課題特定や発想に繋げるスキル | 選択式 |

上記以外で、あなたが必要だと感じる 知識・スキル・素質があれば記載ください。 記述式 こちらに記述してください⇒

上記の優先順位を回答した理由を教えてください。 記述式 こちらに記述してください⇒

アンケート設問表

【Dパート】既に活用されている講座・情報源に関してお伺いします。

尚、基本的には外部に公開されている講座・情報源を指していますが、インハウスに開発され、有効だと感じた研修等に関しましても、宜しければ共有下さい。その場合は、研修名やURLではなく、内容の簡単なご紹介をお願い致します。

D-1: あなた自身が既に活用されているサステナブルファイナンスに直接関連した外部の教材・講座・研修・資格があれば、お知らせ下さい。
(最大3つまで記入)

D-1①: 講座/研修名	記述式	こちらに記述して下さい⇒
D-1①: 関連URL	記述式	こちらに記述して下さい⇒
D-1②: 講座/研修名	記述式	こちらに記述して下さい⇒
D-1②: 関連URL	記述式	こちらに記述して下さい⇒
D-1③: 講座/研修名	記述式	こちらに記述して下さい⇒
D-1③: 関連URL	記述式	こちらに記述して下さい⇒

D-2: あなた自身が今後活用したいと思っている、サステナブルファイナンスに直接関連した外部の教材・講座・研修・資格があれば、お知らせ下さい。
(最大3つまで記入)

D-2①: 講座/研修名	記述式	こちらに記述して下さい⇒
D-2①: 関連URL	記述式	こちらに記述して下さい⇒
D-2②: 講座/研修名	記述式	こちらに記述して下さい⇒
D-2②: 関連URL	記述式	こちらに記述して下さい⇒
D-2③: 講座/研修名	記述式	こちらに記述して下さい⇒
D-2③: 関連URL	記述式	こちらに記述して下さい⇒

D-3: 所属する組織において活用を推進しているサステナブルファイナンスに直接関連した外部の教材・講座・研修・資格があれば、お知らせ下さい。
(最大3つまで記入)

D-3①: 講座/研修名	記述式	こちらに記述して下さい⇒
D-3①: 関連URL	記述式	こちらに記述して下さい⇒
D-3②: 講座/研修名	記述式	こちらに記述して下さい⇒
D-3②: 関連URL	記述式	こちらに記述して下さい⇒
D-3③: 講座/研修名	記述式	こちらに記述して下さい⇒
D-3③: 関連URL	記述式	こちらに記述して下さい⇒

アンケート設問表

D-4: 正式な研修プログラムではないが、サステナブルファイナンスに直接関連し便利と感じている外部の情報源があれば、お知らせ下さい。
(最大3つまで記入)

D-4①: 講座/研修名	記述式	こちらに記述してください⇒
D-4①: 関連URL	記述式	こちらに記述してください⇒
D-4②: 情報媒体/情報名	記述式	こちらに記述してください⇒
D-4②: 関連 URL	記述式	こちらに記述してください⇒
D-4③: 情報媒体/情報名	記述式	こちらに記述してください⇒
D-4③: 関連 URL	記述式	こちらに記述してください⇒

さいごに

レポート作成にあたり、追加インタビューをする場合もございます。場合によってはお声がけしても宜しいでしょうか。 選択式

お名前を教えてください	記述式	こちらに記述してください⇒
ご連絡先メールアドレス	記述式	こちらに記述してください⇒
ご連絡先メールアドレス(確認用)	記述式	こちらに記述してください⇒
このアンケートはどのように知りましたか?	記述式	こちらに記述してください⇒

お知らせを希望するものにチェックをお願いします。

本調査の結果や関連イベントについてのお知らせ	チェック
調査実施団体である鎌倉サステナビリティ研究所のメーリングリスト	チェック

アンケートは以上です。ご協力誠にありがとうございました。
【ご提出方法】メールにこのエクセルを添付してご提出ください。

宛先: survey@kamakurasustainability.com

件名: SF: アンケート

回答本文: 無記入でかまいません。

調査実施団体: 一般社団法人鎌倉サステナビリティ研究所

<https://www.kamakurasustainability.com/>

鎌倉サステナビリティ研究所(KSI)について

地球・人・未来を考え、責任あるビジネスの発展に貢献するサステナビリティスペシャリストの育成を目指し活動する非営利組織です。サステナビリティに関わるテーマについて、講座の開発と運営、勉強会の開催、調査、人材の流動化支援等を行っています。KSIは、金融業界はじめ様々なプロフェッショナルに支えられています。

一般社団法人 鎌倉サステナビリティ研究所
代表理事 青沼愛
〒248-0013 神奈川県鎌倉市材木座5丁目15-12
info@kamakurasustainability.com

KSI レポート
サステナブルファイナンス市場における個人の能力開発に対する提言
2023年4月発行

K S I Kamakura
Sustainability
Institute.

kamakurasustainability.com

免責事項:

本レポートに記載した内容は、調査・執筆時点で入手可能な一般公開情報に基づいていますが、その正確性、完全性について鎌倉サステナビリティ研究所が責任を負うものではありません。

©2023 Kamakura Sustainability Institute.